2019年度

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローカル型)

研究開発実施報告書

(第1年次)

令和2年3月

静岡県立榛原高等学校

本校は、静岡県中部の沿岸部にある、人口約 45,000 人の牧之原市に所在し、2020 年に創立 120 周年を迎える地域に根差した伝統ある進学校です。各学年普通科 5 クラス (2020 年度から 4 クラス)、理数科 1 クラスからなり、夜間定時制を併置する高等学校です。全日制の生徒の多くは、卒業と同時に大学に進学し、この地区から巣立って行きます。地域としても人口流出や人口減少、地場産業の衰退や事業継承者不足を包含する産業構造の変容、外国人労働者の増加と現在日本の各地方都市が抱えている同様の諸問題に直面している地域です。

ところで、本校の校歌に「進取を求め」という歌詞がありますが、まさに、2019 年は進取を求めた年となりました。2018 年度末からの準備を経て、2019 年度から文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローカル型)」の委託を受け、この度、初年度の研究報告をまとめる運びとなりました。

2019 年度は、総合的な探究の時間におけるファシリテーション研修や企業人講話等、2018 年度から取り組んできた課題発見・解決型学習の継続や国内外への宿泊研修の実施、新たに企画したイングリッシュ・キャンプや外国籍及び外国にルーツを持つ定時制の生徒と全日制の英語・グローカル部との交流等、生徒が主体的に取り組めるプログラムが増えました。また、2019 年度で5年目を迎えた牧之原市の事業である「地域リーダー育成プロジェクト」にも多くの生徒が参加し、地域の抱える問題に市民や企業関係者等と協働的に取り組みました。

さらに 2020 年度からは、理数科の修学旅行をシンガポールからロスアンゼルスに、また、普通科の修学旅行を国内からマレーシア・シンガポールに変更し、全ての生徒が在学中に一度は、海外に出て、外から自分や地域を見て、日本や地域の将来像を考える機会を得ることとなります。もちろん、現代は海外に出て行かなくてもグローバルを体感することができる時代になりましたが、やはり、自分の眼で見て考えることを日本以外の国や地域で経験してくることは重要なことに変わりはありません。そこに行かなければその土地の空気や温度を体感することはできないのですから。これからの時代を生きる生徒にとって、学ぶことと同様に自ら足を延ばして出向き、出向いた土地でその土地の歴史に触れ、改めて自分や自分の地域を捉え直すことによって学ぶことは価値あることではないかと同行した私も実感いたしました。生徒研修報告の随所に見られる「行ってみて初めてわかったことがある」という感覚を今後も大切にしていきたいと考えています。

2019 年度、多くの生徒が総合的な探究の時間や様々な研修機会を通して大変貴重な学びを得ることができました。お忙しい中、御協力いただいた関係の皆様、本当にありがとうございました。

目次

「巻頭言」	1
1 研究開発の概要	3
1-1 構想概要図	6
1-2 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究院	開発の概要7
1-3 年間活動計画	g
1-4 2019 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定	シート (申請時)
1-5 研究開発組織(申請時)	11
2 研究開発構想	12
2-1 研究の目的	12
2-2 人材還流	12
2-3 グローバル人材の育成	12
2-4 研究手法	13
3 活動内容	14
3-1 総合的な探究の時間(地域創造探究Ⅰ・Ⅱ/榛高タイム)	14
3-2 実社会プログラム	14
3-3 その他の活動(類型毎の趣旨に応じた取組)	15
3-4 設定目標と成果	16
4 生徒の活動(主な活動)	16
4-1 総合的な探究の時間(地域創造探究 I ・ II /榛高タイム)	16
4-2 実社会プログラム	17
4-3 地域リーダー育成プロジェクト	19
4-4 類型毎の趣旨に応じた取組	20
5 事例報告	22
6 運営会議等	32
6-1 第1回運営指導委員会・コンソーシアム会議	32
6-2 第 2 回運営指導委員会・コンソーシアム会議	34
6-3 文部科学省視察	37
6-4 グローカル事業(カリキュラム開発アドバイザー)協議報告	41
7 研修報告	43
7-1 先進校視察報告(京都府立鳥羽高等学校)	43
7-2 先進校視察報告(福井県立丸岡高等学校)	44
7-3 先進校視察報告(兵庫県立柏原高等学校)	45
7-4 先進校視察報告(静岡県立熱海高等学校)	
8 評価と課題	47
8-1 事業評価(校内評価)	47
8-2 事業評価(カリキュラム開発アドバイザー)	48
9 参考	49
9-1 アンケート結果	49
0-2 楼原喜校の取組を紹介する新聞記事等	73

1 研究開発の概要

1 研究開発名

HAFプロジェクト HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT

~地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方ついての研究~

2 研究開発の概要

(1) 目的·目標

- ア 住み続けられるまちづくりを実現するための課題発見・解決型学習の研究開発地域についての確かな理解と、グローバルな視野を併せ持つグローカル・リーダーを育成する。
- イ パートナーシップで目標を実現する生徒を育成するための研究開発国内外でのフィールドワークを通じて、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、協働して能動的に学び続けることができる人材を育成する。
- ウ 質の高い教育を実現するための研究開発 産学官の連携により、地域と学校が一体となって生徒を育成し、持続可能な社会システムを構築する。

(2) 概要

- ア 特色ある科目や課外活動によって、グローバルな視野と国際感覚の醸成を図る。
- イ 課題解決型学習の実践により、他者と協働的に学ぶ姿勢や批判的思考力を身に付ける。
- ウ 英語による対話力やディスカッションの力を身に付け、コミュニケーションスキルを向上させる言語活動の充実を図る。
- エ 産学官連携協力体制を構築し、フィールドワーク等を通して地域の企業研究と働くことの意義について の学びを深める。
- オ 新教育課程施行に向けての教育課程研究を進める。

3 2020 年度の研究開発実施計画

(1) 総合的な探究の時間(榛高タイム/地域創造探究Ⅰ・Ⅱ)

グローカル・リーダー育成のための課題解決型学習に係る学習プログラム開発と、学校設定教科・科目設置のための研究を行う。(2019 年度から実施、学年進行)

学年	目標
1	住み続けられるまちづくりを実現するための課題発見と課題解決型学習
1	地域社会の課題を発見し、協働的に課題を解決する方法を考える。
n	パートナーシップで課題を解決するための課題発見と課題解決型学習
2	地域と世界のつながりを理解し、批判的思考力を身に付ける。
	パートナーシップで課題を解決し目標を実現するための課題解決型学習
3	自己の生き方・在り方について考えるとともに、グローカル・リーダーとして、地域や世
	界、社会貢献の在り方について考える。

(2) 課外活動

プロジェクトを成功に導く中核的役割を担う生徒を育成するため、実社会プログラム (課外活動) 及び部活動 (グローカル部) を設置する。また、地域リーダー育成プロジェクト (牧之原市の事業) への参加・協力を行う。

活動	目標
実社会プログラム(希望者)	地域課題について、金融・経済の視点から分析を行う。
美性云ブログブム (布室有)	また、国内・海外で研修を実施し、より深い学びを行う。
部活動(グローカル部)	学校内外で進行する国際化に対応するため、部活動において中核
	的生徒を育成する。
地域リーダー育成プロジェクト	地域社会とのつながりを深める。
地域リーダー自成プロジェクト	将来の地域社会を支える市民を育成する。

(3) 新教育課程施行に向けての教育課程研究

カリキュラム開発アドバイザーの協力を得て、以下のアーウについての研究を行う。 先進校視察等の情報収集を行い、2021年度までに新しいカリキュラムの開発を行う。

ア 社会に開かれた学校の実現

コミュニティ・スクールの研究

イ 教科横断型の探究学習の実現

総合的な探究の時間の研究、学校設定教科・科目の研究

ウ 文理融合型カリキュラム

変化の激しい時代に対応した文理融合型カリキュラムの研究

4 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
HAFプロジェクト グローカル・リーダー育成のための課題 研究プログラムの開発	本校、静岡大学教育学部等 主なフィールドワーク先 【国内】 沖縄(名護市他) 連携企業事業所(牧之原他) 【海外】 アメリカ合衆国(シアトル、 サンフランシスコ他) 台湾(屏東、高雄、台北) シンガポール共和国	校長 渡邊 昇司
社会に開かれた教育課程の開発 新教育課程施行に向けての教育課程研究	本校 牧之原市役所 静岡大学教育学部	校長 渡邊 昇司

運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考				
堀川 知廣	静岡産業大学情報学部 学部長	学識経験者(ICT活用)				
亀坂 安紀子	青山学院大学経営学部 教 授	学識経験者(国際・金融経済)				
菅野 文彦	静岡大学教育学部 教職センター長	学識経験者 (教育)				
渋江 かさね	静岡大学教育学部 准教授	学識経験者 (NPO)				
玉置 実	(財) 静岡経済研究所 主席研究員	団体(地域経済)				
白井 実	株式会社伊藤園 静岡相良工場長	企業(学校評議員)				
渡辺 浩	TDK株式会社 国内人材開発統括部人事部課長	企業(人材開発)				
【事務	【事務局】 静岡県教育委員会高校教育課、静岡県総合教育センター(教育行政)					

高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	役職	機関の代表者名
静岡県立榛原高等学校	校長	渡邊 昇司
静岡県教育委員会	教育長	木苗 直秀
牧之原市	市長	杉本 基久雄
静岡県地域外交部地域外交局	局長	長谷川 卓
静岡大学教育学部(静大附属小中学校)	学部長	江口 尚純
矢崎部品株式会社	管理統括部長	大石 斉
ふじのくに茶の都ミュージアム	館長	熊倉 功夫
島田掛川信用金庫	会長	市川 公
牧之原市民	ファシリテーター	原口 佐知子
牧之原市小中学校	牧之原市教育長	橋本 勝



Educational Policy

榛原高校は、グローバルな視野で次代を支える -ダーを育成し、人材の還流を目指します。



身につけてほしい2つの視点/(実現に向けた具体的な取り組み)

多様な研修と実践を通じて、2つの

先進的な取り組みと独自の進路指導により、 視点を育む基礎を身につけます。

国・県より認可されている事業 ·文部科学省 (地域との協働による高等学校教育改革 推進事業 (グローカル型)) 2019年

★地域リーダ育成プロジェクト

ファシリテーションスキルアップ講座 ・地元企業や事業所の課題解決に取り組む アジェンダプログラム

(魅力ある学校づくり「コアスクール」 (学力向上)》2018年~

「コアスクール」事業

⇒ 高校生が地域への愛着を深め、 地域の抱える課題解決に貢献する

·ICT機器の活用、校外研修、先進校視察

進路実現に向けた学び

> LOCAL(地域を知る) <

<榛高タイム(総合的な探究の時間)>

- ★ファシリテーション研修
- ・対話を通して協働的に取り組む姿勢を養う
- ★地域社会探究活動 ・地元企業の方々による「企業人講話」
- · 牧之原市長出前授業
- ★実社会プログラム · 地元企業訪問
- ★海外修学旅行(2017~)
- [理数科]シンガポール・マレーシア ・2020~アメリカ(ロサンゼルス)
- [普通科]広島・関西
- +2020~マレーシア・シンガポール
- ★海外留学生交流
- ★イングリッシュキャンプ(2018~) 海外の大学生を招き、 コミュニケーションカの向上を図る
- ★英語(グローカル)部
- GLOBAL (視野を広げる)

ひとりひとりの可能性を広げていきます。

文部科学省委託事業

- ★海外·国内研修
- ・アメリカ<シアトル、サンフランシスコ>(8/22~27)・台湾(12/23~27)・沖縄(8/26~29) 目的に沿った研修地の選定、事前学習をベースとした 現地企業訪問や学生交流、成果報告会開催
- ★高大連携事業(県内大学との連携を予定)
- ★校内異文化交流
- ★カリキュラム開発・研究

理数科サイエンスプログラム

- ★課題研究
- ・1年次:課題解決のためのファシリテー -ション講座
- ・2年次:課題研究発表会→1グループ県大会へ
- ★大学等での研修・体験
- •1年次:科学探究講座、科学研修、東京大学訪問
- ・2年次:静岡大学 工/農学部での実験講座、 情報科学講座

2

★英語4技能などの新テスト対応

★授業改善·授業力向上

- ★キャリアデザイン講演会
- ★保護者進路勉強会
- ★ポートフォリオによる振り返り

Society5.0に向けた新しい教育活動に取り組んでいきます。

裏面では「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローカル型)」についてご紹介しています。

地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローカル) 静岡県立榛原高等学校

榛原高校を支えるコンソーシアム

榛原高校の目指す教育

・行政機関 国・東・ 市・町 静岡大学教 育学部 棒原高校 静岡大学開 国小中学校 地元企業 地元企業

グローカルリーダーの育成

地域についての認識を深めた<u>地域リーダーの育成</u> グローバルな視野を持つ<u>グローバルリーダー</u>の育成 これからの時代に求められるスキルの育成

HAFプロジェクト

HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT ~ 地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究~

地域のコミュニティの危機

- ・少子高齢化、人口流出・耕作放棄地、空き家問題
- ・耕作収業地、至さ家问題・地域社会のグローバル化

地域を支える若い担い手の 育成は地域の願い 総合的な探究の時間の改革

文理融合型のカ リキュラム開発

榛原高校と高校生への期待

社会教育機関と

の連携

具体的な取り組み

ファシリテーション研修 課題解決・協働学習 大学(研究室)訪問 フィールドワーク(企業訪問) 主権者教育 レポート作成、プレゼンテーション ESLプログラム 海外研修(シンガポール、台湾、ア メリカ・シアトル)

榛原高校のチャレンジ (H27~)

海外研修の導入

理数科 シンガポール研修 普通科 台湾研修 海外修学旅行の導入へ

文科省委託事業への参加 実社会との接点を重視した課題解 決型学習プログラム

静岡県教育委員会事業への参加 魅力ある学校づくり推進事業 アドバンススクール事業

牧之原市との連携事業

地域リーダー育成プログラム

Haibara H.S.

人材の

reflux



〈Society5.0に向けた新しい教育活動に取り組んでいきます〉

LOCAL (地域を知る)

- <榛高タイム(総合的な探究の時間)>
- ★ファシリテーション研修
- ・対話を通して協働的に取り組む姿勢を養う
- ★地域社会探究活動
- ・地元企業の方々による「企業人講話」
- ・牧之原市長出前授業
- ★実社会プログラム
- ・地元企業訪問

GLOBAL (視野を広げる)

- ★海外修学旅行 (2017~)

 「理数科]シンガポール・マレーシア
 →2020~アメリカ(ロサンゼルス)

 [普通科]広島・関西
- →2020~マレーシア・シンガポール
- ★海外留学生交流
- ★イングリッシュキャンプ (2018~) 海外の大学生を招き、 コミュニケーションカの向上を図る
- ★英語(グローカル)部

・文部科学省 地域との協働による 高等学校教育改革推進事業(グローカル型)R1~ ・静岡県魅力ある学校づくり「コアスクール」(学力向上)H30~

文部科学省委託事業

★海外·国内研修

 アメリカ<シアトル、サンフランシスコ>(8/22~27)
 台湾(12/23~27)
 申的に沿った研修地の選定、事前学習をベースとした 現地企業訪問や学生交流、成果報告会開催

★高大連携事業(県内大学との連携を予定)

- ★校内異文化交流
- ★カリキュラム開発・研究

「コアスク-ル」 事業

- ★地域リーダ育成プロジェクト
 - ⇒ 高校生が地域への愛着を深め、 地域の抱える課題解決に貢献する
- ファシリテーションスキルアップ講座地元企業や事業所の課題解決に取り組む
- アジェンダプログラム
- ★授業改善·授業力向上
- ・ICT機器の活用、校外研修、先進校視察

理数科サイエンスプログラム

★課題研究

- ・1年次:課題解決のためのファシリテーション講座 ・2年次:課題研究発表会→1グループ県大会へ
- ★大学等での研修・体験
- ・1年次:科学探究講座、科学研修、東京大学訪問
- ・2年次: 静岡大学 工/農学部での実験講座、 情報科学講座

校訓「至誠真剣」

をを次グ 原 目育代口高 指成を 1 校 バ ま えル 人材 るな リ視 1 野 0 ダ 還 流 1

進路実現に向けた学び

- ・英語4技能などの新テスト対応
- ・キャリアデザイン講演会
- ·保護者進路勉強会
- ・ポートフォリオによる振り返り

榛原高校は2020年に 創立120周年を迎えます

		T	ı				T	T
指定	定期間	ふりがな	しずおか	けんりつはレ	いばらこうと	うがっこう		±h □ □
2019	°2021	①学校名	靜	岡県立樹	逐原高等学	学校	②所在都道府県	静岡県
③対	象学科		④ 対象	とする生	徒数		(5学校全体の規模
	名	1年	2年	3年	4年	計	普通科 1年生	三 200 人 2 年生 205 人
普	通科	200	28	20	0	248	3年生 197 人	理数科 1年生40人 2年生
理	数科	40	40	32	0	112	40 人 3 年生	32 人 合計 714 人
6研	究開発		HA	AFプロシ	ジェクト	(HAIBARA	ACHIEVING FUTU	JRES PROJECT)
構	想名	~地域と	世界を結	ぶ有為な	グローカ	ル人材育	成の望ましい在	り方ついての研究~
	·究開発 概要	イ 課題解 ウ 外国語 上させ 正 産義に オ 新教育	決型学習 による対 る言語活 連携協力 ついての 課程施行	の実践に 話力やデ 動の充実 体制を構 学びを深	より、協 ・イスカッ ・。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ フ ン う ・ 、 フ 、 フ 、 フ 、 フ 、 フ 、 フ 、 フ 、 フ 、 フ 、	が働的に学 ・ションの ・ィールド	ぶ姿勢や批判的。 力を身に付け、	際感覚の醸成を図る。 思考力を身に付ける。 コミュニケーションスキルを向 て地域の企業研究と働くことの
		オ 新教育課程施行に向けての教育課程研究 (1) 目的・目標 ・地域についての確かな理解と、グローバルな視野を併せ持つグローカル・リーダーの育成 ・これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、能動的に学び続けることができる人材 の育成 ・産学官の連携により、地域と学校が一体となって生徒を育成し、持続可能な社会システムを 構築する。 (2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校が立地する牧之原市では、人口減少が続き、2040年には、2015年比25%減、2060年に は現在からおよそ44%減少(27,500人)することが予測されている。また、同時に高齢化が 進んでおり、このままでは地域の経済・社会の縮小均衡は避けることができない状況にある。 逆に、牧之原市内の外国人の人口は、2016年1月末は、593人であったのに対し、2019年1 月末には、1,068人とほぼ2倍となっている。外国人労働者の受入が積極的になれば、市内の 外国人の人口は今後も増加傾向となる。地域内での外国人との文化交流や異文化理解の方策 を考えていく必要がある。 この牧之原市周辺地域には茶業に加え、自動車産業をはじめとして、多種多様か製造業が発						

らは、静岡県教育委員会の「魅力ある学校づくり推進事業」を活用。

研究」、平成27年度から現在まで「地域リーダー育成プロジェクト」(牧之原市)、本年度か

- (1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画(年次進行)
 - ○学校設定教科「地域創造探究(仮)」(総合的な学習(探究)の時間)を中心に、全ての教 科(科目)と連携して実施する。
 - 1年次 自己理解を深めた上で、身近な社会を知り、世界とのつながりを考える。 地域社会の課題を発見し、協働的に課題を解決する方法を考える。
 - ・地元企業等に勤務する企業人等による講話、金融経済講座
 - ・フィールドワーク(地元企業の事業所訪問)、講演会(牧之原市長)
 - ・ファシリテーション研修
 - ・日経ストックリーグコンテストへの応募・参加(理数科・希望者)
 - ・定時制課程の外国籍生徒と英語部の定期的な交流による文化交流や外国語 によるコミュニケーション力の向上(対象を英語部・希望者として継続実施)
 - ・ESLプログラム(イングリッシュキャンプなど)への参加(希望者)
 - ・海外(台湾などアジア方面)研修(希望者)
 - ・行政機関等の主催する地域連携事業への参加(希望者)
 - ・学習成果報告会(模擬請願)によるプレゼンテーション
 - 2年次 幅広い社会を知り、自分の未来と社会をつなげる。

地域と世界のつながりを理解し、批判的思考力を身に付ける。

- ・大学(研究室) 訪問などのフィールドワーク
- ・日本とアジアのつながりを探究する。
- ・地域とアジアの繋がりについて地場産業(茶、自動車産業)を通して考える。
- ・海外 (アメリカ、オーストラリア) 研修 (希望者)
- 国内(沖縄)研修(希望者)
- ・シンガポール・マレーシアとのつながりを考える。(修学旅行:2020年実施)
- 学習成果報告会(高校生の地方創生研究発表会)
- 3年次 自己の在り方、生き方を考える(キャリア形成・確立へ)。
 - ・社会貢献の在り方について考える。
 - ・地域課題、国際問題について、2年間の学習を振り返る。
 - ・3年間の学びをどのように活かすか考える。
 - ・大学(研究室)訪問などのフィールドワーク(希望者)
 - ・ 進路目標の実現について考える。
- ○新教育課程施行に向けての教育課程研究

「社会に開かれた学校(教育課程)」の実現と、変化の激しい時代に対応した文理融合型 カリキュラムの研究開発

○地域社会と学校の在り方に関する研究

地域社会の変容(少子高齢化、グローバル化)に伴い、持続可能な地域社会の実現に向け、 社会教育機関等と連携した教育活動の研究・実践

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

外部委員、校内推進委員によるカリキュラム開発推進委員会を整備する

外部推進委員会

静岡大学教育学部、牧之原市地域振興課、海外交流アドバイザー、教育委員会高校教育 課担当

校内推進委員会

校長、副校長、教頭、事務長、理数科主任、教務主任、進路指導主任、研修主任、地域連連携推進監、各学年推進担当者、部活動顧問等

※地域連携推進監(2019年度設置)は、大学、行政機関等との連絡調整行う。

(3) 必要となる教育課程の特例等

学校設定教科「地域創造探究」による総合的な探究の時間の代替

⑨その他 特記事項 静岡大学教育学部、附属小中学校との連携協定締結(3月を予定)に向けて準備中 牧之原市との地域連携事業に関する協定の見直し(2015年協定締結済み)

(8)-2

具体

的内

容

8



1-4 2019 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート (申請時)

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021 年度)
Г	(卒業時に生徒が習得	すべき具体的能力	の定着状況を測	るものとして、管理	単機関において設 定	定した成果目標)	× / L 1
l	英語での日常会話やフ	゚レゼンテーション	ができる力(実用	英語検定2級以上	:)を持っている生	徒の人数	単位:人
а	本事業対象生徒:						40
l	本事業対象生徒以外:		24				
l	目標設定の考え方:外	国語によるコミュニ	ニケーション能力の	- D向上	-		
Г	(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						# /L 0/
l	卒業後、地域に留まる	、または将来戻る	つもりであると回名	答する生徒の割合	ì		単位:%
b	本事業対象生徒:						25
l	本事業対象生徒以外:	_	19				
	目標設定の考え方:地域への理解を深めたことが地元定着につながっていることの検証						
	(その他本構想における	る取組の達成目標	票)				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
海外研修、ESLプログラムへの参加者数						単位:人 	
C	本事業対象生徒:						100
	本事業対象生徒以外:	36	70				
L	目標設定の考え方:グローバルな視野と国際感覚の醸成						

1. 本構想において実現する成果目標の設定(アウトカム)

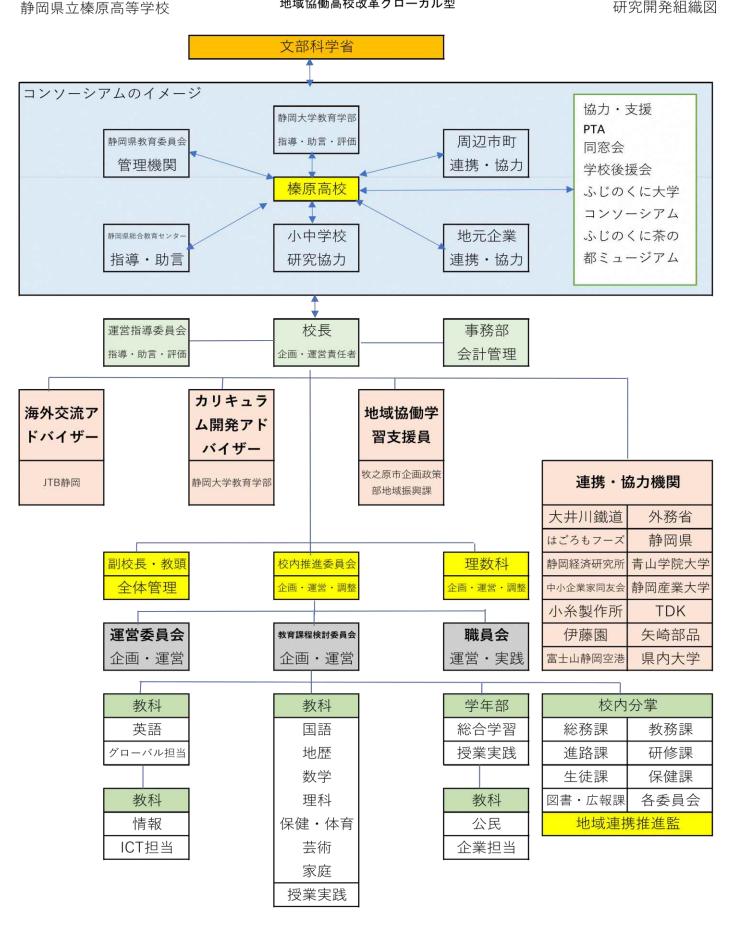
2	2. 地域人材を育成する高校としての活動指標(アウトプット)								
	Y	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)		
	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 単位:人								
٦	地域連携事業への参加	四土1疋奴							
а		53	55				80		
l	目標設定の考え方:地	域人材育成の進	歩状況の把握						
	(普及・促進に向けた取	双組の実施状況を	測るものとして、管	管理機関において	設定した活動指標	票)	× 4. □		
I.	学習成果報告会の実施	 色回数					単位:回 		
b	b 5 7 10								
	目標設定の考え方:目標の達成状況の把握と普及活動の確認								
	(その他本構想における取組の具体的指標)								
l	地域企業や自治体へのフィールドワークへの参加人数								
С		41	126				200		
	目標設定の考え方:地	元の人的資源を活	目標設定の考え方:地元の人的資源を活用し、地域の課題や魅力について理解を深める						

3	3. 地域人材を育成する地域としての活動指標(アウトプット)						
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) コンソーシアム機関との研究協議回数						単位:回
а			0				2
	目標設定の考え方: 地元自治体と学校との連携の推進						
	(その他本構想における取組の具体的指標) 地域企業、地元自治体の人的資源の活用人数					単位:人	
d			29				90
	目標設定の考え方: 地元企業や自治体との連携及び地元理解						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	694	695	0	0	0
本事業対象生徒数					
本事業対象外生徒数					



2 研究開発構想

2-1 研究の目的

本校では、文部科学省及び地元自治体の協力の下、文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム実践研究」(平成 28・29 年度)、「地域リーダー育成プロジェクト(牧之原市)」(平成 27 年度 ~現在) 静岡県教育委員会の「魅力ある学校づくり推進事業」(平成 30 年度 ~ 現在)等の地域連携事業を実践してきた。

これらの事業を通じ、高校生は地域の大人が考えている以上に地域社会に疎いことが明らかになってきた。そ

こで、地域社会(学校、地元企業、行政機関、牧之原市民)が協力し、地元の高校生が、 大学等を卒業した後、地域に戻ってくる人材の還流を実現するためのカリキュラム開 発を行うことを目指すこととした。

また、急速に進む国際化は、従来からの形である日本人が外国に赴くという国際化に加え外国人が来日し、地域社会に定着するという新しい段階に入りつつある。地域社会のグローバル化に対応する人材育成についても、外国籍や外国にルーツを持つ生徒が



在籍している定時制課程を有する本校の役割と考えられる。このことを踏まえ、グローバルに活躍する人材を育成し、質の高い教育を実現するための実践研究を目標とした。

2-2 人材還流

本校の立地する牧之原市は、少子高齢化と人口減少、地場産業である茶業の衰退など多くの課題を抱えている一方で、充実した交通インフラ等を背景に自動車産業を中心に様々な事業所の生産拠点が集積しており経済的な面からは他の人口減少地域よりも恵まれた環境にあるといえる。



このことから、卒業した生徒が将来地元に戻り、地域社会を支えるリーダーとなる ための地域リーダーを育成するカリキュラム開発を行うこととした。

【地域社会の現状】	【地域社会の強み】			
・少子高齢化と人口減少	・自動車産業を中心とした多様な産業の製造拠点が存在			
・地場産業の茶業の衰退、海水浴を中心とした	・国際空港、高速道路網など充実した交通インフラ			
観光客の減少	・地域住民、行政機関、地元企業の教育に対する協力体			
・アジアを中心とした外国人労働者の増加	制			

2-3 グローバル人材の育成

牧之原市内の外国人の人口は、2016年1月末は、593人であったのに対し、2019年1月末には、1,068人とほぼ2倍となっている。今後もこの傾向が続くことが予想され、並置されている定時制課程には、外国籍または外国にルーツをもつ生徒が増加している。同様に、全日制課程においても外国にルーツを持つ生徒や外国語が堪能な生徒が入学するようになってきている。



また、日本全体の人口減少するなかで、企業活動のグローバル化は避けて通ること ができない。実際に本校の卒業生が海外勤務することも決して珍しいことではなく、海外研修で訪問する台湾の 董事長(現地法人の社長にあたる)は本校の卒業生である。民族(人種)が異なる人とともに事業の目標を達成 するために力を合わせて努力することが当たり前の時代はすぐそこまでやってきているといっても過言ではない。このことから、グローバル化する社会に対応した質の高い教育を実現するための研究開発を行うこととした。

2-4 研究手法

(1) 仮説

コンソーシアム(行政機関、地元企業、地域住民)と協働し、すべての生徒を対象とした数多くの学習プログラムの提供により、実社会とのつながりを理解し、世界と地域社会とのかかわりを理解し、国際的感覚を持ち地域社会を支える人材が育成される。加えて、これらの研究を通じて新しい時代に対応したカリキュラムが開発を行うことができると考えた。

(2) プログラム内容

研究の目標を達成するため、以下のア~ウの取組を行い、カリキュラムの開発をすることとした。

ア 総合的な探究の時間

1年次は、牧之原市長、牧之原市の市民ファシリテーター、地元企業関係者による企業人講話、フィールドワークを通じて、地域社会の課題を発見し、協働的に課題を解決する方法を考える授業を企画した。

2年次以降は、海外修学旅行を踏まえ、地域と世界のつながりを理解し、批判的思考力を身に付ける。また、3年次は自己の生き方・在り方について考えるとともに、グローカル・リーダーとして、地域や世界、社会貢献の在り方について考えるための学習プログラムを開発する予定である。

イ 実社会プログラム

教員の研修・育成に加え、プロジェクトを牽引するリーダー的存在となる生徒(のグループ)育成のため、 平成28、29年度に研究を行った文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム実践研究」の手法を活用し、理数科1年生を中心に希望者対象の課外活動を企画した。

ウ 類型ごとの趣旨に応じた取組

1年生は台湾研修、2年生はアメリカ研修、沖縄研修の国内外研修を企画した。

また、従来の英語部をグローカル部として改組し、実社会プログラムと同様プロジェクトの牽引役とした。 さらに、ESDプログラム(ESLプログラム)として、イングリッシュ・キャンプを企画した。

(3) 事業評価

評価項目は次の3つとした。「地域連携事業の推進」、「外国語でのコミュニケーション能力の向上」、「学習成果の発信」。評価方法は、参加者人数、実施回数、生徒・保護者への質問紙調査及び英語検定の結果とした。 事業評価は、運営指導委員会(年2回開催)及びコンソーシアム委員による外部評価とした。

事業改善については、運営指導委員会の指導・助言の下、PDCAサイクルにて行う。

(4) その他

校長を中心とした校内推進委員会(HAF会議)において、事業を企画・運営するとともに静岡県教育委員会と連携して随時事業内容の見直しを行う。校内推進委員は、副校長、教頭、理数科長、教務課長、進路課長、研修課長、地域連携推進監、実務担当及び事務担当とする。

地域リーダー育成プロジェクト(牧之原市事業)については、地域連携推進監を中心に連携を行い、生徒の 積極的参加を促す。

教員の育成のため、県内外の先進校視察を行い、事業実践の推進役となるよう研修を行うとともに、職員研修会等での共有を図る。

3 活動内容

3-1 総合的な探究の時間(地域創造探究Ⅰ・Ⅱ/榛高タイム)

【年間指導計画と実施内容(1年生)】

実施項目	時期	内容
ファシリテーション	5月	牧之原市市民ファシリテーターの協力によるファシリテーション及びグ
グラフィック研修	3月	ラフィック講習
牧之原市長講話	7月	牧之原市長による講演
仪之房印文碑的		牧之原市の現状と課題及び将来の展望について学ぶ。
		地元企業関係者による講演
企業人講話	7月	牧之原市周辺に事業所が立地する意味や、企業の経営戦略等について
		学ぶ。
総合的な探究の日	11 月	静岡大学教育学部、静岡県立美術館、茶の都ミュージアムへのフィール
からロロンなり本ノロックロ	11 /7	ドワーク
	9~3月	牧之原市周辺地域の活性化のための意見書の作成
		市長講話、企業人講話、企業訪問(希望者)等で学んだことを踏ま
地域課題探究		え、ファシリテーションの手法を活かして、グループでテーマを設定、
		課題発見・解決型学習を行う。
		学習成果は、グラフィック研修で学んだことを利用し、各クラス内で
		プレゼンテーションを行う。また、優秀なグループは学年発表及び牧之
		原市役所において発表を行う。
		なお、全国高校生サミットや海外(台湾)研修に参加した生徒(希望
		者)が、その成果を学年全体に普及させる。

3-2 実社会プログラム

【年間指導計画と実施内容 1・2年希望者(1年生87人、2年生15人)】

実施項目	時期	内容	
参加老曹 集	参加者募集 5月	1・2年生を対象に参加者募集	
		日経 STOCK リーグレポートコンテストへの参加。	
		1年生 牧之原市及び周辺市町、静岡市の事業所訪問 (5社)	
企業訪問	7月~11月	2年生 静岡市、島田市の事業所訪問 (3社)	
		各企業の経営戦略を学ぶとともに、製造現場を見学。	
金融経済教室	11月	外部講師による金融経済教室を実施	
課題探究	9~3月	企業訪問、金融経済教室を踏まえ、地域経済活性化のためのレポート作	
		成及び発表を行う。	

3-3 その他の活動(類型毎の趣旨に応じた取組)

(1) 国内外研修

研修先 (対象・人数)	時期	内容	
アメリカ (2年生・13人)	8月	シアトル・サンフランシスコでのフィールドワーク 企業訪問や領事館訪問など グループでの課題解決学習を実践(テーマは「光産業」、「海洋プラス ティック」、「お茶」) 学習成果は、レポートにまとめるとともに、全国高校生フォーラム等で 発表	
沖縄 (2年生・15人)	8月	名護・那覇でのフィールドワーク OIST訪問、外国人との英語による那覇市フィールドワークなど。 学習成果は、地方創生に取り組む高校生発表会等で発表	
台湾 (1年生・16人)	12 月	屏東県、高雄市、台北市でのフィールドワーク 企業訪問や静岡県台湾事務所訪問など グループでの課題解決学習を実践(テーマ:異文化理解) 学習成果は、レポートとしてまとめるととともに、校内にて発表会を実 施する。	

(2) 研究会・発表会への参加

研修先 (対象)		内容	
静岡健康長寿学術フォーラム静岡の未来を		「お茶と健康について」をポスターセッション参加	
拓く「高校生及び大学生の活動報告」	11 月	し、発表を行う。	
(2年生・6人)		優秀賞受賞	
全国高校生フォーラム		「About regional activation by green tea	
(2年生・4人)	12月	~through Taiwan and America~」をテーマにポスター	
(2十生・4八)		セッションに参加し発表を行う。	
静岡県高校生グローバル課題研究ポスター		「About regional activation by green tea	
セッション	2月	~through Taiwan and America~」をテーマにポスタ	
(2年生・4人)		ーセッションに参加し発表を行う予定。	

(3) ESD (ESL) 教育 (イングリッシュ・キャンプ)

研修先 (対象・参加者)	時期	内容
榛原高校校内 (全校生徒・41 人)		チャップマン大学(Chapman University)、カリフォルニア州立大学 (California State University) の学生8人を迎え、2泊3日で実施した。

3-4 設定目標と成果

設定目標	進捗状況(目標)	成果(延べ人数)	評価
外国語でのコミ	英語検定2級以上合格者(30人)	合格者 33人	達成率 90.8%
ュニケーション	ESLプログラム参加者(40人)	参加者 41人	台湾研修の希望者が少なか
能力の向上	海外希望研修(米国)参加者(10人)	参加者 13人	った。
	海外研修(その他)参加者(40人)	参加者 22 人	
地域連携事業の	実社会プログラムへの参加者(55人)	参加者 102 人	達成率 148.7%
推進	企業訪問参加者(60人)	参加者 108 人	想定以上の参加があった。
	地域リーダー育成PLへの参加者(80人)	参加者 90人	
学習成果の発信	校内での成果発表の機会 (4回)	4 回	達成率 100%
	校外での成果発表の機会 (3回)	3 回	

2020年2月末現在

- 4 生徒の活動(主な活動)
- 4-1 総合的な探究の時間(地域創造探究Ⅰ・Ⅱ/榛高タイム)

(1) 市長出前授業【7月9日(火)】







1年生を対象に、牧之原市の 地場産業、地域経済の現状、抱 える課題についての講話。

市長が考える「牧之原市の未 来構想」を学んだ後、グループ

に分かれて、気付いた事や疑問に思ったことなどを話し合い、学習成果を市長に報告した。

(2) 企業人講話【7月26日(金)】







地元企業の方々を講師に招き、 今の仕事に就くまでの経緯や現 在の仕事について講話。

その後、グループワークで情報

を共有、感想や疑問点、質問などを発表。生徒は、講師の先生方のキャリアを知ることで、企業人をより身近に感じるなど、地元にある有力企業について理解を深め、その結果進路意識を高めることにつながった。

(3) 総合的な探究の日 (フィールドワーク) 【10月11日(金)】







「総合的な探究の日」として、フィールドワークを実施した。コンソーシアムの一員である「ふじのくに茶の都ミュージアム」を

訪問し、地場産業である茶について学ぶとともに、連携大学である静岡大学教育学部を訪問し、模擬授業を受けた。

(4) 学習成果発表会 (ポスターセッション) 【2月18日 (火)】







1年生普通科の生徒たちが、9 月から総合的な探究の時間を使って研究を続け、牧之原市の課題 解決についての成果をグループ 発表。

代表チームは、牧之原市長を前にプレゼンテーションを実施する。

4-2 実社会プログラム

(1) 学習の概要

ア 活動目標と主な活動

目標:地域課題について、金融・経済の視点から分析を行う。また、国内/海外でフィールドワーク等を実施し、より深い学びを行う。

活動:日経STOCKリーグレポートコンテストへの参加、フィールドワーク(企業の事業所訪問など) イ 参加生徒

1年生 76人(普通科37人、理数科39人)

海外研修参加者 29人 (アメリカ研修 13人 台湾研修 16人)

ウレポートタイトル・作成生徒氏名一覧(23作品)

「未来の車の立場~Eco&Safety~」竹内悠翔 池田壮太 小甲倭想 菅根作楽

「中小企業が羽ばたくために〜今企業に求められること〜」小川怜真 宮津颯太 鈴木智喜 松浦右京 「新たなる可能性〜自動販売機による地域創生〜」紅林夏実 笠井呼夕伎 山本依吹 良知はな

「Bright future in MAKINOHARA〜世界をつなぐ仕事〜」森田のえる 沢田衣央里 大川原未琴 由本楓果「CHT」岡村優 二羽沙奈 大澤里 石神東洋

「世界に羽ばたく日本の食~「和」を広げよう~」藤本アイラ 田島小想 高橋奈央 池谷穂乃華 「缶詰ビジネス」深田稀来斗 中島祐喜 横山颯太 横山陽太

「カジノで牧之原市の経済発展を!~『カジノは危険だ』なんてもう古い~」

良知真門 押切智哉 福留友聖 村松然

「繋ぎ〜地域=人+交通インフラ×物流〜」柿畑克己 増田理緒 長尾洸希 渡辺遥海

「SELF DRIVING~交通をより快適に~」大石華楓 齋藤大喜 香川真衣子 今村優希

「5G~速すぎる世界へ~」木村俊輝 久坂律 鈴木康矢 鈴木聖也

「あなたの知らないシーフード『海からの贈り物』~静岡の海産物をより美味しいものへ~」

大川原凪紗 増田真恋美 松本奈歩 吉岡海悠

「『地方産業をつなぐ道』〜快適で安定した生活のために〜」内記拓也 黒木綾人 桜井秀哉 「災害〜企業と人の助け合い〜」条田結衣 福代ひより 河原崎美空 井上芽依 「ジャガイモが彩る世界に〜ジャガイモの可能性〜」瀧井厚征 漢人太智 中西竜輝 堀内雄太「『Tuna is not only food』〜缶に詰められない未来も悪くない〜」

前田奈都希 稲本乃依 小柳津桂奈 宮崎日奈

「ロボットの幅を広げる~ドラえもんを作ろう~」中村愛紀 伊藤こころ 大澤夏帆 大場友侑 「第四次産業革命~次世代の産業開発~」大石拓実 増田響 山下俊諒 新實優大 「奇跡の保存食~日本の災害から考える~」櫻井逸希 松永幸太朗 村松泰季 松本光生 「マグロと台湾」薮田涼楓 池ヶ谷姫七 太田千尋 「明日の子供たちへ~生分解性プラスチックで明日を創る~」

薫田詩己歩 井鍋沙也花 大石知 松永麻友子 本杉愛海

「About regional activation by green tea~through Taiwan and America~」

山本祥子 斎藤翔吾 鈴木愛美 板倉愛花

「光の活用で未来を明るく」清水詩音莉 原崎ひかる 西尾美都希 岩ケ谷佳那

(2) 主な活動

ア 企業訪問

企業名(所在地)、訪問生徒人数	訪問日時
伊藤園(牧之原市) 訪問生徒 11人	10月28日午前10時から11時30分まで
TDK 静岡工場(牧之原市)訪問生徒 12人	10月28日午前10時から11時30分まで
矢崎ものづくりセンター(牧之原市) 訪問生徒 22人	10月28日午後3時から5時まで
静岡空港(牧之原市) 訪問生徒 47人	10月28日午前9時から11時まで
はごろもフーズ(静岡市清水区) 訪問生徒 25人	10月28日午後2時から4時まで
東洋製缶静岡事業所(牧之原市) 訪問生徒 5人	12月13日午後3時30分から6時

<企業訪問の様子>









TDK静岡工場

富士山静岡空港

はごろもフーズ

東洋製罐 (2年生)

イ 金融経済教室【11月18日(月)】



講師に野村ホールディングス株式会社 コーポレート・シティズンシップ推進室 酒井賢一氏を招聘。

1・2年生の希望者60人が参加。日本経済新聞の読み方や、経済指標を用いた企業分析の手法等について学ぶ。

ウ その他 (講演等)



吉田町特別授業【11月6日(水)】

内 容:吉田町のまちづくり、教育等についての講演

講師:吉田町教育長対象:16HR 生徒 40 人。



防災について【12月19日(木)】

内 容:防災教育の重要性について 講 師:宮城教育大学小田准教授 参加者:希望者8人(理数科1年生)

4-3 地域リーダー育成プロジェクト

(1) 学習の概要

牧之原市が主催する地域連携事業で、平成27年度から実施されている。本年度は、大幅にリニューアルした。 原則として、牧之原市からの募集に希望する生徒が参加する形態としている。

行政機関との連携役として、校内組織に地域連携推進監を設置している。

(2) 主な活動

ア 答志島サスティナブルキャンプ【8月26日(月)~27日(火)三重県鳥羽市】



フィールドワークを通して答志島の魅力を探索し、対話によって地域の 魅力創出を考えるワークショップに参加した。

イ さいたま市ファシリテーター講座【11月23日(土)~24日(日)埼玉県さいたま市】



ワークショップに参加。

1日目は盆栽美術館にてワークショップ。

2日目は浦和コミュニティーセンターにてファシリテーション講座に 参加した。

ウ 地域リーダー育成プロジェクト振り返りの会【1月25日(土)牧之原市坂部区民センター】



「地域リーダープロジェクト 振り返りの会」が実施され、参加した生徒 17 人に認定書、52 人に修了書が杉本市長から手渡されました。

続いて、分科会では「地域のための夢の企画を考えよう」、「次への一歩を考えよう~人生グラフから学ぼう~」というテーマでグループワークが 実施され、発表などに参加した。

(3) その他の活動

地域リーダー育成プロジェクトに参加した生徒の一部は、さらに発展的な学習として、以下の活動に参加した。

ア 「働くってことを考える」【2月8日(土)牧之原市役所相良庁舎】



仕事や生き方について対話を通して自分や社会を考える「対話の場」 に参加した。

ファシリテーターに津屋崎ブランチ LLP 代表の山口覚氏、元法政大学 大学院教授坂本光司氏の特別講演にも併せて参加した。

イ 高校生による地方創生研究発表会【2月8日(土)島田市チャリム21】



2年生の代表生徒4人が、「時代は魚!ぎょぎょっと地域の食卓を征服」というタイトルで研究成果をプレゼンテーション。

学習の一環で、実際に漁船に登場したり、焼津市で魚の保管倉庫(冷蔵庫)を見学するなどのフィールドワークを行った。

4-4 類型毎の趣旨に応じた取組

(1) 国内外研修

ア 国内研修(沖縄)



参加者:1

日 時:8月26日(月)から29日(木)まで

参加者:15人(2年生)

費 用:約10万円(現地研修費用の一部をグローカル事業費から支出)

研修先:沖縄科学技術大学院(OIST)、琉球大学、沖縄宇宙通信所、沖縄平

和祈念公園、那覇市内研修

その他: 事前研修として、講演会(平和学習、異文化理解)を実施。那覇市内研

修は、外国人ガイドによる英語での市内研修を実施した。

イ アメリカ研修(シアトル、サンフランシスコ)



日 時:8月22日(木)から27日(火)まで

参加者:13人(2年生)

費 用:約35万円(現地研修費用の一部をグローカル事業費から支出)

研修先: 杉本製茶現地法人、ボーイングエバレット工場、アマゾン、マイクロソ

フト本社、小糸製作所現地事業所、在シアトル日本国総領事館、シア

トル、サンフランシスコ市内研修他



その他: 事前研修としてフィールドワーク(小糸製作所静岡事業所、杉本製茶事業所、JTB静岡支店、ふじのくに茶の都ミュージアム)及び講演会(静岡県立大学国際関係学部高畑教授)を実施。帰国後、課題探究

学習(3テーマ)を実施。

ウ 台湾研修(台北・高雄)



日 時:12月23日(月)~27日(金)まで

参加者:16人(1年生)

費 用:約13万円(現地研修費用の一部をグローカル事業費から支出)

研修先:台灣矢崎股份有限公司、静岡県台湾事務所、故宮博物館、高雄・台北市

内研修、茶芸館他



その他: 事前研修としてフィールドワーク (矢崎部品ものづくりセンター、富士山静岡空港)及び講演会 (静岡産業大学情報学部長堀川教授、同柯

教授)、金融経済教室を実施。

研修報告会として、ポスターセッションを実施。

(2) ESD (ESL) プログラム (イングリッシュ・キャンプ)



日 時:8月11日(日)~13日(火)

参加者:41人

会 場:榛原高校学習ホール他

講師:8人(チャップマン大学、カリフォルニア大学)

内容:英語によるワークショップ、プレゼンテーションなど

その他:研修成果報告会を1年生総合的な探究の時間に実施。

(3) 部活動 (グローカル部)

ア 定時制課程生徒とのワークショップ



定時制課程に在籍する外国籍生徒とのワークショップ(年 12 回程度を予定)。 10 月以降交流を活発化させ、今後はALTと協力し、事業内容を深化していく 予定。

イ 出前授業(牧之原市立川崎小学校)



10月28日(月)牧之原市立川崎小学校6年生の英語の授業に参加。 ハロウィンゲームなどを実施して英語でのコミュニケーションの楽しさを伝える活動を行う。

ウ 学習成果の発信



11月10日(日)「第24回静岡健康・長寿学術フォーラム 健康・長寿と茶」(グランシップ)

英語(グローカル)部を中心としたグループが、静岡の未来を拓く「高校生及び大学生の活動報告」に参加し、優秀賞を受賞。

(4) 学習成果の発信

ア 全国高校生フォーラム



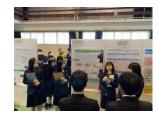
12月22日(日)東京国際フォーラム

グローカル部のメンバーを中心に、課題解決型学習の成果を発信。

英語でのプレゼンテーションを行った。

1・2年生31人がフォーラムを参加し、全国の高校生のプレゼンテーションを見学した。

イ 静岡県高校生グローバル課題研究 ポスターセッション大会



2月8日(土)三島北高校

県内外 40 チームが参加したポスターセッションに、グローカル部のメンバーを 中心にした 4 人が参加、セッションを行った。

ウ グローカル事業学習成果報告会(代表ポスターセッション)



2月7日(金)榛原高校図書室

台湾研修に参加した生徒とアメリカ研修に参加した生徒が、学習成果を発表。 1 ~3年生の希望者が見学した。

グローカル事業の運営指導委員とコンソーシアムの委員の方も参加。

5 事例報告

(1) 総合的な探究の時間

ア 成果と課題

1年生の総合的な探究の時間については、予定通り実践を行うことができた。次年度に向けては、海外修学旅行を中心とした2年生の総合的な探究の時間の研究開発を行う予定である。また、学校設定教科(科目)の設定に向け、先進校視察などの取り組みを引き続き行う必要がある。

イ 事例 (課題探究型学習)

第19回 榛高タイム (グループ探究⑩: 学年発表) 実施要項

1年__組__番 氏名__

榛高タイム (1年生) の探究テーマ・・・身近な社会を知る

地域の課題解決学習を通じて、キャリア教育を推進する

目 的: 地域課題に対する探究テーマについて、学習成果報告書およびポスターにまとめた内容を

発表する。

日 時: 令和2年2月18日(火) 7限15:15~16:05

場 所: 静岡県立榛原高等学校 講堂

持 ち 物 : 筆記用具、手帳、実施要項 (このプリント)、榛高タイムファイル、学習成果報告書

タイムスケジュールおよび役割分担

時程	内容	活動	
	会場準備	担当:1年1組	
昼休み	12:35~	パネル設置(1年生昇降口より)	
	ポスター掲示		
	12:55~	担当:各グループ2名・ポスター持参→掲示	
6 限終了後	76 T. BB 1.1	必要なものを持参し、講堂へ移動	
	移動開始	自グループのポスター前集合	
15:15~15:20	全体説明	本日の概要説明	
15:20~16:00	学年発表	学習成果報告書およびポスターに	
		基づくポスターセッション	
16:00~16:05	授業終了	各グループでポスター回収教室へ移動	
	△·担 <i>街二</i>	担当:1年2組	
	会場復元	パネル撤去(1年生昇降口へ)	

学習成果報告書

令和2年1月16日

牧之原市市長 杉本 基久雄 様

静岡県立榛原高等学校普通科 生徒氏名 ○○ ○○

牧之原市周辺地域の【 地域活性化 】のための意見書

(1) 趣旨

牧之原市が現在抱えている問題は、少子高齢化に伴う人口減少である。令和元年10月の調査によると、16歳が400人ほどおり、それに対し、70歳が800人ほどと、二倍もの人数がいることがわかる。 そこで私たちは、牧之原市および周辺地域が今以上に発展していくため、次のような提案を行いたい。

(2) 牧之原市周辺地域の【 地域活性化 】のための方策

牧之原市には、大規模な土地があるため、その土地を有効に活用する。

その例として、ドームや大規模な公園の建設などを提案する。富士山静岡空港の周辺にドームを建設することで、 人気のアーティストのライブを行うことやスポーツ観戦を行うことができる。よって、幅広い年齢層の人々を呼 び込むことで経済活性化につながる。

また、大規模な公園を建設することが、牧之原市の魅力となり、より多くの人にこの市を知ってもらえるきっかけとなる。

(3) この学習を通じて学んだこと

課題解決に向けて、考えるといういい経験を積むことができた。

最後に私たちのために講演を頂いた牧之原市市長様および、富士山静岡空港をはじめとする企業の皆様、レポート作成に協力して頂いたすべての方々に感謝申し上げたい。

エ 学習成果の発信(ポスターセッション)【令和2年2月18日(火) 榛原高校講堂】





(2) 課外活動(実社会プログラム)

ア 成果と課題

多くの生徒が意欲的に参加し、課題解決型学習としては十分な成果を上げることができた。一方で、台湾研修については30人程度を想定して募集したところ、17人(参加者16人)と応募が少なかった。このことから、海外研修の目的を再設定し、訪問先を変更する検討を行う必要がある。

イ 成果事例 (課題探究型学習)

グローカル事業「海外研修報告会」実施要項

令和2年2月7日(金)15:30~16:15 HAFプロジェクト会議

1 目 的

生徒の海外研修の成果を報告するとともに、榛原高校における探究学習の成果発表を行う。

2 日 時

令和2年2月7日(金) 午後3時30分から4時15分まで

3 会 場

榛原高校図書室(1棟4階図書室)

4 内容

海外フィールドワークの成果報告(ポスターセッション)

- 5 スケジュール
 - (1) 全体説明(司会:理数科2年生 松永さん、普通科1年生 池田君) 令和元年度の学習について <5分>
 - (2) 代表セッション(グローカル部) < 5分>全国高校生フォーラム報告
 - (3) ポスターセッション I < 8分 プレゼンテーション 5分、質疑 3分>

1年生台湾研修報告

グループA 「企業訪問報告」

グループB 「台湾茶文化研修報告」

グループ C 「台湾歴史・文化研修報告」

- (4) 移動 < 2分>
- (5) ポスターセッションⅡ <15分 プレゼンテーション7分、質疑8分>

2年生ポスターセッション報告

グループA 「明日の子供たちへ」~生分解プラスチックで明日を創る~

グループB 「光の活用で未来を明るく」

グループC「About regional activation by green tea~through Taiwan and America~」

(6) 総 括 < 5分>

1年生 台湾研修代表者(普通科1年生 二羽さん)

2年生 アメリカ研修代表者 (理数科2年生 井鍋さん)

(7) 講 評 < 5分>

コンソーシアム代表 運営指導委員代表

○ 2年生ポスターセッション

研究テーマ『光』



『生分解プラスチック』



『お茶』



○ 1年生ポスターセッション

研修テーマ『歴史・文化』



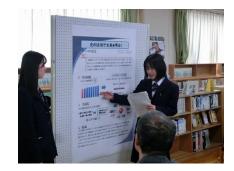
『台湾茶文化』



『企業研修』



ウ 学習成果の発信(ポスターセッション)【令和2年2月7日(金) 榛原高校図書室】







工 学習成果報告書

○ 国内外研修報告書(アメリカ・沖縄)





○ 海外研修報告書(台湾)



資料の詳細については、榛原高校のホームページ <a href="http://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf/IndexFormView?OpenViewを御覧ください。" http://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf/IndexFormView?OpenViewを御覧ください。

Bright future in MAKINOHARA ~世界をつなぐ仕事~







私たちがテーマ設定をする際に思い浮かんだことは、東京オリンピック・パラリンピックが行われるということだ。東京オリンピック・パラリンピックでは世界中の人々が日本に訪れ、国内は大盛り上がりするだろう。

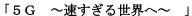
今日本では、2020年までに外国からの留学生の受け入れを 30万人にするとともに、日本の大学生の海外留学を 12万人(現状 6万人)に、高校生の海外留学を 6万人(現状 3万人)に、倍増させる目標を掲げ、若者の海外留学 を促進している。また、文部科学省では、大学改革と国際化を推し進め、国際通用性、国際競争力の強化に取り組 もうとする財政的に支援する「スーパーグローバル大学(SGU)」といった事業が行われている。グローバル化する 社会に対応できるよう、様々な取り組みが行われていることがわかった。

私たちが住む牧之原市は、夏休み中にアメリカ合衆国ワシントン州ケルソーの学生が牧之原市内の家に約 10 日間ホームステイし、国際交流を行っている。そこで、牧之原市の特色を生かしてグローバル化が促進できる方法はないのかと興味を持ち、調べてみたいと思った。

牧之原市を世界に発信するためには、たくさんの方法があると考えた。その中で私たちは、牧之原市の特産物と化粧品を組み合わせ、ユニークな商品によって牧之原市を有名にしようと思ったため、投資テーマを「世界をつなぐ仕事」と名付け、牧之原市のグローバル化発展に向けて大きな期待を込めた。

10月の下旬には、企業訪問を行った。企業訪問では富士山静岡空港と矢崎に行き、グローバル化を中心として様々なことについて知ることができた。

また、私たちは来年修学旅行で、マレーシア、シンガポールへ行く。この 2 国に置かれる日本の企業についても 学んだ。





最近、自動車の交通事故がニュースで取り上げられることが多くなっている。

特に高齢者ドライバーによる事故が目立っているように思う。 そんな現状を解決する方法を考えた結果、自動運転という答えに 至った。自動運転車が普及すれば、自動車網を管理することができ るため人的原因による事故を減らすことができる。そこで、自動運 転車について調べてみると自動運転車には、5 Gが使われること がわかった。

5 Gとは第五世代移動通信システムの略称で携帯電話などの通信

に用いられる。アメリカや韓国ではすでにサービスが始まっており、新たなテクノロジーとして注目されている。 さらに、携帯電話や自動運転車だけでなく、農業や医療、スポーツなど様々な分野での活躍が期待されていること を知った。

私たちも、これからの社会で 5G は多種多様な活躍が期待できるだろうと思った。

そのためテーマを「5G~速すぎる世界へ~」とし、【5Gによって、これから世界が大きく変わり、我々の生活がより高度かつ豊かなものになってほしい】という願いのもと、本レポートを作成した。

『地方産業をつなぐ道』

~快適で安定した生活のために~











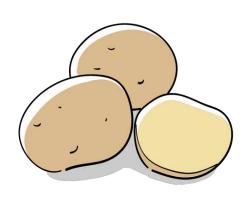


2019年から、「令和」という新しい時代が始まり、社会に 大きな変化がもたらされるだろうと予想されている。私たち がテーマにしている 「交通」にももちろん大きな変化がある だろう。今年に控えた東京五輪に向けて、都心の交通状況が 大きく改善されることや、日本全国に新幹線が整備されるこ となどがその一例である。しかし、その裏には様々な課題が あることを忘れてはいけない。地方で例えるならば、「公共 交通機関が不便」、「人の移動やモノの輸送が非効率」、「従 業者の不足」などである。公共交通機関のひとつである「鉄

道」は地域によっては廃止され、移動時には車に頼るしかないところもある。課題が積み重なることで地域の活性 化や環境に大きな影響がもたらされてしまうだろう。それを防ぐため公共交通をうまく生かして活性化していくこ とで、地域のポテンシャルを見つけ、地元の人たちの生活が便利になることは当然であるが、他地域にマイカーな しで生活や観光ができるよう考え、発信していくことで、市町村の PR になる。しかし、今現在の地方では、ローカ ル線や路線バスなどの地域の交通機関はまだうまく生かされていないと思った。私たちはこれらの課題から、未来 の交通技術の一部で運転や運行ルートなどの面で効率化を図ることが必要なのではないかと考えた。そこで、今回、 次世代の交通を改善することに目を向け、実行している企業を様々なジャンルよりスクリーニングを通して自動運 転や AI など交通の新技術を開発している企業に投資することにした。スクリーニングでは、各会社が、独自の取り 組みで勝負していることがわかった。それを通した今回の投資により、企業によって株の値動きに大きな違いがあ って、その変化には利用者の利用実態や、新規プロジェクトの予算等で変化が大きくなったとわかった。

また、今回は、TDK静岡工場への企業訪問、自治体へのインタビューを実施した。それにより、新技術の自動 運転や、地元における交通網やまちづくりの実際の計画、担当者の方が思う改善法を知ることができ、独自に活性 化策を考えることができた。本レポートでは、これらの課題から私たちが考える改善策を企業への投資を通して考 えていきたい。

ジャガイモが彩る世界に ~ジャガイモの可能性~



じゃがいもは、私たちの生活の中にありふれている。屋台 のフライドポテト。おやつはポテトチップス。カレーやポテ トサラダなどにも含まれている。このように日常的にはあま り意識していないが、そこに可能性があると私たちは考え た。じゃがいもの原産地は南アメリカのアンデス山脈(標 高:3000~4000m級)であり、とても強い植物だ。NASAの研 究によると、火星でもじゃがいもが育つのだとか。 将来人類が火星に移住した際にもキーとなるじゃがいも。そう 思った私たちは、じゃがいもをテーマとして研究を行った。



「明日の子供たちへ ~生分解性プラスチックで明日を創る~ 」

現代の社会はあらゆる問題であふれている。戦争、飢餓、難民、気候変動、環境汚染、人種差別、性別問題、貿易や政治に至るまで多くの問題が山積みである。人同士の対立、環境との戦い、ジャンルは様々である。近頃は第三次世界大戦という言葉を耳にするようになった。第二次世界大戦終戦から 2020 年で 75 年。目まぐるしいほどの発展を遂げてきた科学技術の発達により世界は物であふれている。それに伴い、多くの環境問題が発生した。公害病が発生し、多くの人が亡くなった。そんな中私たちが目を付けたのは海洋汚染である。海洋汚染にも様々な原因があるが、その中でもマイクロプラスチックによる海の生態系への被害を懸念した。

私たちが住む静岡県には 15 の港があり年間漁業漁獲量は国内 3 位(平成 25 年度)である。海洋生物への被害は水の都静岡にとって死活問題である。マイクロプラスチックの人体への被害はまだ未解明であるがこのまま時が過ぎれば私たちの体をむしばむ一つの要因になり得る。ただし、プラスチック製品は私たちの生活には欠かせないものである。

そこで、私たちが推奨したいのは生分解プラスチックの普及である。生分解プラスチックとは自然界において微生物が関与して環境に悪影響を与えない低分子化合物に分解されるプラスチックである。このプラスチックが普及すれば環境への被害は最小限にとどめることが可能であると考えられ、私たちは今の暮らしを続けることができる。そこで、生分解プラスチックの可能性について広めたい。

たとえ日本国内で生分解プラスチックが普及したとして、世界で普及しなかったのならばまったくもって無意味ではないかと。よって危機意識を世界に広げていくことの重要性と世界の技術の現状についても議論した。



光の活用で未来を明るく

今回私たちは、この研究を行う前に海外研修を行った。その研修で訪問した小糸製作所で学んだ「光」について 興味を持ったのでテーマを光に決めた。光は様々な分野に関わっていて、多くの可能性がある。その中で私たちは、 病気の治療としての光に注目し、安心して暮らせる社会の実現のために何が必要か考えて学習を進めた。

最終的に、照明と一体化した光療法機器を提案する。これらの開発により、安全に過ごしやすくなると思う。また 光は、情報通信にも活用でき世界で活躍できる。

私たちは、これらの学習を通して、生活について改めて見つめ、考える事が出来た。この経験を実生活に活かし、 社会で活躍できるように、今後も日々努力していきたい。

About regional activation by green tea



私たちの学校のある牧之原市は、全国有数のお茶の産地である。近年、ペットボトルのお茶の普及などにより、伝統的な急須でお茶を飲む機会が減っている。また、他産地での茶生産の増加や高齢化の影響で、茶農家の廃業や、耕作放棄地が増加するなど、牧之原市の活力が失われているように感じている。そのため、私たちは茶産業を通じて地域活性化をしたいと思い、茶をさまざまな視点からとらえ、考え直していこうと考えた。しかし実際問題として、情報化社会の現代において茶産業が今後かつて全盛期のような巻き戻しができるとは考えられにくい。社会全体の変遷そのものとともに、人の茶に対する好みや関心といった意識も薄れてしまっているのである。この問題を解決するため、私たちは台湾とアメリカでの研修で茶について学んだことを踏まえ、研修で学んだ他地域での緑茶の捉え方や文化を参考にし、また榛原高校生とその保護者を対象とした緑茶に関するアンケートを行った。その結果、茶産業の未来が絶望的であることに地域住民が気付いていないことが明らかとなった。「自分たちの町はお茶で有名である」という意識は、自分たちの町に自信を持つことができる一方で、その意識が更新されないまま衰退の一方をたどる深刻な状況に住民自体が気づいていないという事態を引き起こしてしまっている。

また、今日の社会ではSDGs(2030年に向けて社会の持続可能な開発目標)が求められ、地域においても、企業においても社会への貢献や活動を通した社会への影響などの社会との関係性は切り離せない。これからの地方都市や企業が、社会において価値のあるものとして存在し、持続可能で中長期的な成長ができるためには何が必要かも考えた。

それらのことを踏まえ、茶産業をペットボトル茶の普及、簡単で本格的な味が楽しめるティーパック茶の普及、 お茶の成分や効能をより多くの人に知ってもらい「スーパーフード」としてのお茶の概念を形作ることなどの、従 来の消費体系だけでなく、さらに、これからの世界の市場で勝負できるような茶にするためには何が必要であるか を考えた。そこで新しく考え出されたのが「バイオ研究による茶の新品種の開発」である。クローン栽培が主であ るお茶を、付加価値のある高級ブランド品としてのお茶にするという取り組みに変え、新しい形で売るのである。 また先に述べた地域住民の茶産業の現状の理解不足も地域の衰退の原因のひとつであると考えた。

しかし今の日本では、商品の労力や価値に見合った対価が支払われない傾向がある。商品の付加価値を理解せず、「値段が高い」から「価値がある」という認識の社会では、本当に価値のある高級品は売れず、安いものばかりが売れてしまう。その現状を打破するためには、「商品の背景にある労力や価値を理解しそれをもって判断できるようになる教育」が必要である。

研究を通じて社会の現状と地域の現状を比較し、社会と地域双方にとってよりよい状況を作りながら、地域活性 化をする方法について考察した。

(3) 課外活動 (グローカル部)

ア 成果と課題

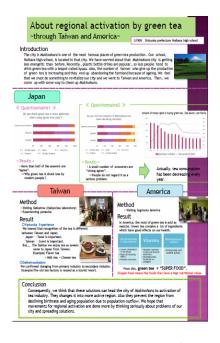
定時制課程の外国籍生徒との交流会や、地元企業と連携したイングリッシュ・キャンプへの参加など充実 した活動を行った。次年度以降については、この活動をさらに発展させるとともに、活動内容を外部に発信 する努力を行う必要がある。

イ 活動紹介(ポスター作製とプレゼンテーション)

グローカル部の生徒を中心に、海外研修(アメリカ)に参加した生徒が全国高校生フォーラムでのポスターセッションに向けて探究学習を展開。

学校内外で学習成果を発信した。研修テーマは、地場産業「お茶 (緑茶)」について。

<ポスター>



<校内プレゼンテーション>



<杉本製茶本社会議室にて>



<グランシップ(静岡市)>



<全国高校生フォーラム(東京都)>



(4) 課外活動(地域リーダー育成プロジェクト)

牧之原市が提供する地域連携事業で、従来よりも参加しやすい形態となった、次年度以降も、校内で参加者 を募り積極的に参加させる方向で牧之原市と調整を行っている。

(5) 新教育課程にむけて

コミュニティ・スクールに関する研究は、学校評価委員会等において検討がなされ、速やかに移行できる体制を構築するよう協議が行われた。

教科横断型の探究、文理融合型カリキュラムの開発については、教務課及び校内委員会(教育課程検討委員会)において、協議が行われた。次年度以降は、より具体的な検討及びシュミレーションを行う予定である。

- 6 運営会議等
- 6-1 第1回運営指導委員会・コンソーシアム会議
- (1) 日 時令和元年9月19日(木) 午後1時30分から4時まで
- (2) 場 所榛原高校学習館3階図書室
- (3) 出席者 コンソーシアム委員 10 人、運営指導委員 7 人 (欠席なし)
- (4) 内容

ア コンソーシアム代表者会議

- ・コンソーシアム代表者紹介
- 事業概要の説明
- イ 運営指導委員会
 - 運営指導委員紹介
 - ・事業概要の説明
 - ・事業報告、今後の計画
 - •質疑応答、意見交換等
- (5) 国内外研修報告会
 - ・運営指導委員会終了後生徒による国内研修(沖縄)、海外研修(シアトル・サンフランシスコ)の研修報告 会を実施
- (6) 議事録
 - ア コンソーシアム会議 (午後1時30分から2時まで)
 - · 管理機関挨拶 (静岡県教育委員会高校教育課 指導監 小関 雅司)
 - · 学校長挨拶(静岡県立榛原高等学校 校長 渡邊 昇司)
 - ・コンソーシアム代表者、関係者自己紹介
 - · 事業内容紹介 (静岡県立榛原高等学校 校長 渡邊 昇司)
 - イ 諸連絡
 - ウ 運営指導委員会(午後2時15分から4時まで)
 - · 管理機関挨拶(静岡県教育委員会高校教育課 指導監 小関 雅司)
 - · 学校長挨拶 (静岡県立榛原高等学校 校長 渡邊 昇司)
 - ・コンソーシアム代表者、運営指導委員、各アドバイザー自己紹介
 - · 事業内容紹介(静岡県立榛原高等学校 校長 渡邊 昇司)
 - ·質疑応答・意見交換(敬称略)

(堀川)

- ・高校生の減少(年平均600人程度)に伴う大学進学者が減少している。地域に必要な人材育成の必要性が 高まっており、教育機関と大学、行政の連携が重要になっている。
- ・ナンバー1、オンリー1を目指す。静岡は独自性を持った会社が多い。企業の話を聞いて、どうしたらそうなれるのか学生に考えさせる必要がある。地域課題の解決をテーマに自分たちで考え、発表するような取

組をしてほしい。

(玉置)

事業の自走性を考えると、この事業を多くの教員への普及を考える必要がある。また、指定校にはそうしたことが求められている。

(校長)

・イングリッシュ・キャンプの取組などは、理数科で試行を行い、普通科に広めた。また、本年度は研修課 に主管を移し、英語科の職員と協力して実施し普及を図っている。

(島田)

・各教科の取組に関しては「社会に開かれた教育課程」ということがキーワードとなる。 普段の教科の活動につなげる狙いを持ち、生徒に気付かせていくことが必要。

(堀川)

・大学で行われているような企業と連携した出張講座で単位認定は可能か。コンソーシアムの市川さんや大 石さんたちの協力は得られるはず。

(校長)

・学習指導要領上の問題があり現状では難しい。

(亀坂)

- ・大学でも定員割れが深刻化している。高校と同じ課題を共有していると考えている。
- ・青山学院大でも優秀な生徒を確保するために、定員の5割目標でAOや推薦で生徒を取ろうとしている。 榛原高校は大学の推薦枠の確保をどうしているのか。
- ・優秀な学生を確保するには、親の理解と協力は不可欠。榛原高校の取組を保護者に広めることが大切。また、保護者の評価についてアンケート等を実施し、検証を行う必要性がある。
- ・費用の問題があり、海外研修は負担が大きい、大学ではワーキングホリデーの活用などがある。高校にも同じような仕組みを導入すべき。また、安価に外国人との交流を図る方法を探るべき。

(校長)

・定時制の外国籍生徒と全日制英語(グローカル)部の交流会を行う予定である。

(白井)

- ・事業内容が総花的で課題が分散化している。集約する必要性を感じる。
- ・地元に関する活動を集中して行い、そこから視野を広げてみることもよい。
- ・ネットの活用など広報活動を重視すべき。

(渡辺)

- ・地域のコミュニティの中心となる方々を巻き込むことが大切。
- ・親のネットワークを重視すべき。本人の動機付けには親の意見が重要。
- ・榛原高校のオンリー1の事業を大切に。

(大石)

・矢崎ではイングリッシュキャンプ イン ヤザキ を考えている。今年5月に小学生版を実施し、英語(グローカル) 部もボランティアとして参加した。

(長谷川)

- ・台湾研修をはじめ積極的に協力をしていく。
- ・県では「30歳になったら静岡県!」というキャンペーンを行い、「ふじのくにパスポート」を高校生の卒業時に発行している。

(橋本)

・義務教育の段階で様々な取組やっていることが点でしかなく、線となって人々をつなげるような活動を 行っていきたい。そうすれば前進する。

(市川)

- ・高校時代に海外研修を経験することは、視野も広がり貴重である。
- ・ 高校の就職担当の先生が地元の企業をほとんど知らず、企業も高校のことがわかっていない。企業訪問 や技術指導を仲介することでつながりが生まれ、相互理解が深まるような取り組みを行っている。
- ・優良な中小企業を知ってほしい。
- エ 諸連絡(静岡県立榛原高等学校 副校長 田形 和彦) 生徒発表会の案内
- 6-2 第2回運営指導委員会・コンソーシアム会議
- (1) 日 時

令和2年2月7日(金) 午後2時から4時まで

(2) 場 所

榛原高校会議室

(3) 出席者

コンソーシアム委員10人、運営指導委員7人

欠席者 牧之原市市長、静岡大学教育学部学部長、島田掛川信用金庫、伊藤園(白井)

(4) 内容

ア 校内見学

- イ コンソーシアム代表者会議及び運営指導委員会 合同会議
 - ・ 本年度の事業報告
 - 次年度の事業計画
 - 質疑応答、意見交換等
- ウ 生徒による海外研修(台湾)等の報告会
- (5) 議事録(敬称略)
 - ア 管理機関挨拶(高校教育課)
 - ・地域課題の解決等の教育推進事業 51 校が全国で指定、来年度は13 校増える予定。
 - イ 学校長挨拶(榛原高校)
 - 本年度の事業報告
 - 研究概要

3つのプログラムによる研究開発。

総合的な学習の時間 (探究の時間) は、2年前にフルモデルチェンジ、来年度に完成するように研究中。 実社会プログラムとグローカル部 (矢崎部品との連携した課外事業) は統合して、運用を考えていきたい。 地域リーダー育成プロジェクトは、地域行政、地域企業と連携した取り組みをしている。

榛高タイム(総合的な探求の時間)は、1年次にファシリテーションの技術を身につける。

2年次は令和2年から実施予定の海外修学旅行を中心に地域と世界とのつながりを意識させる予定。 3年次は「自分の生き方」を探究することをテーマに、自己実現、キャリア学習、大学でどんな学問を 学ぶのか等を実施する予定。

• 課外活動

日経 STOCK リーグは、1年生希望者を中心にエントリーをした。一次審査を通過、現在は結果待ち。

グローカル部(部活動)は、近隣企業との連携、定時制のフィリピンの生徒との交流、定時制・全日制の 生徒共に良い刺激になっている。

地域リーダープロジェクでは、消防署職員による救急法、富士山静岡空港での研修を実施。大学進学に 生かす生徒もいた(立命館アジア、法政、名桜、静岡県立大)。

ファシリテーションの研修が日頃の授業のアクティブラーニングでも役立つ。

その他、台湾、シアトル、イングリッシュ・キャンプなどの事業を展開した。

榛高タイム

1年生は、 市長出前事業、企業人講話、静岡大学、茶の都ミュージアムフィールドワーク等を実施。 人口減少・過疎化などの地域の課題を取り上げながら、自分は今後どう生きていくのかを考える機会を 持てた。

実社会プログラム

静岡産業大学から講師を派遣していただき、茶文化や中国語を学んでから、台湾研修に参加。

その他

先進校の視察、3年次学校設定科目の名称変更

・目標達成状況について

海外研修参加者が、若干少ないが、次年度は海外修学旅行を取り入れる。ただし、保護者の理解も必要

・教育課程について

情報を指導する教員が常勤ではないので、地域学に振るのはカリキュラム開発で難しい 英語表現演習が変えやすいのではないか。

次年度の活動計画

修学旅行12月普通科マレーシア・シンガポール。理数科はロサンゼルス。

修学旅行以外は本年度と大きな変化はない(地域リーダー、グローカル部の活動は引き続き展開)。

・海外研修(台湾)報告について

台湾の矢崎工場で研修に参加。海外店舗で勤務されている日本人社員との交流が刺激的だった。 「英語=グローバル」ではなく、「多国籍で一つのものを作る=グローバル」ということを学んだ。 台湾矢崎:台湾、ベトナム、日本、中国など様々な国籍で構成されている。

ウ質疑応答・意見交換

(堀川) 昨年度から興味を抱いている。

台湾の事前研修に携わった。

静岡県の中で海外に事業所を持っている会社は400社。事業所の数は1200。

海外展開をしている静岡県内の企業での研修を榛原高校に願う。

短い期間に複数回海外に行く生徒を増やす。そういった生徒が行っていない生徒に対して発表をすることで急速に変化する国際社会を体験できるのではないか。

日本が裕福でなくなっているという裕福の度合いを海外研修で味わえるのではないか。

大学生になってから静岡にすごい企業があると知るのは遅い。中高生の間に企業について知ってほしい。 (亀坂) 課外活動日経 STOCK リーグで地元の企業を知る、レポートを書くという活動が毎年継続して指導できているのは良い。

グローカル部の活動、以前「地元の外国籍の子供と交流してほしい」と話したのを取り入れてくれてうれしい。

外国籍の子供は貧困や低学力などの課題もあるが、全日の生徒が関わることで、英語の学習意欲にもつな

がる。榛原高校らしい取り組みである。

台湾研修の参加人数の少なさ。目標設定が英語の能力の向上では、英語圏の研修を臨む保護者も多く敬遠につながっているのでは。台湾研修の良さ…中国とのつながりを学べる(中国に行くのはリスクが大きいが台湾なら良い)。

大学院が留学生受け入れを始めている⇒中国籍の学生を受け入れ、修士博士課程をとる。ただ、そういった学生は卒業後他国で働いてしまうので、日本のためにならない。日本人学生に地元のことを学ばせて、地元に返そうというのは日本の将来のためになるんだというアピールも必要。

(渋江) グローカル部という名称変更…学校内外で進行する国際化に対応するためという目的と活動内容が合致している。

次年度はどのような活動をしていくのか興味をもっている。

全日制普通科にも外国籍の生徒はいるのか。また、普通科の修学旅行はなぜシンガポールとマレーシアか。 (田形副校長)

今まで理数科がシンガポールに行っていた。ノウハウがあり大学との交流もできる。

外国籍生徒は、複数人がいる。中国籍、フィリピン籍の生徒が1桁はいる。

(渋江)成果発表会の対象、目的は?

(向井)生活館で行う予定。

目的は、多くの人たちに榛原高校の取り組みを知ってもらえる。上級生の学びが下級生に伝わる。

- (渋江)上級生から下級生への伝達、地域の人への報告がプレゼンスでできることがよい。
- (玉置)総合的な探求の時間は、具体的に2 年度どういうイメージなのか。ビフォーアフターが分かりづらい。
- (向井) 1 年生「街づくりを実現するための課題発見」2 年生「地域と世界とのつながり、批判的思考力の育成」 3 年:「パートナーシップ」が主眼。
- (玉置)体験して学ぶというのは、事業が増える?
- (渡邊校長)本年度と同程度で展開することを予定している。
- (玉置)課題解決のための手法を学んだことが課題解決になるのか。

「伝える力(発信者目線)」ではなく、「伝わる力(受信者目線)」を身につけることが必要。「伝わる力=伝わって相手を動かす」のでは。

- (向井)生徒の感想が文章ではなく、箇条書きの連続になっているのがレポートからも現れている。
- (渡邊校長)学校によっては、地域で困っている人をゲスト(10人くらい)として呼んで、困っている課題に対してどう解決を図るかを考えさせるところもある。

LINE などのツールも生徒の文章が短文になっている要因かも。「伝わる」というキーワードが今後大切。

(渡辺/TDK)コンパクトに脱線せずに事業展開している。地域に戻ってくるということをゴールにしているが、 一生を地元で終えるイメージはないのではないか。

地元の企業で力をつけて、自分で起業するなど。

グローバル=海外体験ではない。インターンシップなど企業との連携で、海外に行かなくてもグローバル体験(言葉ではなく、文化・習慣などの違いを体験する)を実施できないか模索していきたい。

- (渡邊校長)生活館を活用して、ポスターセッションをする。
- (堀川)物理・数学をなぜ勉強するんだと思っている学生に対して、企業でのインターンシップは学びの意欲を 向上させるきっかけになる。
- (大石)グローバル=英語ではない。グローバル=地球規模ではない。地域ごとに考え、文化が違う。

地域ごと単独に考えるのではなく、包括的な考えが必要。

台湾矢崎の「グローバル=多国籍」という発言は、商品の販売相手が多国籍という考えも。

- 世界各国の良さ、悪さを知ってもらうことがグローバル人材の育成につながる。矢崎 45 か国に展開して いる。

台湾の生徒人気がないならシンガポールなどの事業所も考えたい。

海外の従業員を日本に1年間呼んで育成事業を行っている。

従業員を榛原高校の生徒の家にホームステイさせて、異文化交流を図ることも可能。

サマーショートプログラム(海外の従業員の子供を日本に短期留学させる)への参加も可能。

企業として榛原高校と連携をしていきたい。

(白井)レベルの高い事業が展開できている。1年次にどれだけ地域に根差した活動ができるかがカギ。 オリンピック、ワールドカップなどによる外国人観光客を活かせないか。

海外研修は視察だけで終わることがないように。報告をどのようにするかが大切。

- (橋本) 榛原高校の取り組みを地域へ発信をしてもらいたい。中学生や地域の人も昔の榛原高校のイメージでとまってしまっているので、今の榛原高校を知ってもらう機会を作ってほしい。
- (田形)救急法に参加してくれた生徒たちは、地域への意識が深まったようだ。
- (小澤)台湾の人気がないのはなぜか。

アジアの国に行ったことによって英語の大切さを実感することはある。

複数人の人間がいる状況下で英語でも臆せず会話に参加できるようなマインドが必要。

- (原口)ファシリテーションはあいまいで決まりのないもの。地域リーダー育成プロジェクトは5年経過。 榛原高校での活動を卒業後も追って、振り返りをしてほしい。活動した生徒たちが高校卒業後に どういった人生を送っているのか追跡調査を。
- (望月)日本全国で32校。コロナウイルスでシンガポール修学旅行を中止と決めた学校はない。(0207 現在) 外務省の危険レベル3になったらいけない。シンガポール・マレーシア共に現在はレベル1。 今後、レベル数値が変わる可能性はあるので、注意深く見ていく。

6-3 文部科学省視察

(1) 日時

令和2年2月6日(木) 午前9時30分から12時まで

(2) 内容

管理機関挨拶、学校長挨拶 事業視察(授業見学 16HR「現代社会」社会科教室) 意見交換(指導・助言)

(3) 議事録

ア 公開授業概要

- ・現代社会と総合のクロスカリキュラムとして実施
- ・以前からの取組を受けて展開

イ 事業活動報告 (概要)

- (文科) 生徒の地元大学への進学率、また、県外に進学した生徒の戻り率はいかがか。
- (下村) 県内大学進学率は3割程度、残りは関東圏と中京・関西圏で半分ずつ程度である。 戻り率は、正確な数字ではないが30%程度だと思う。

- (文科) 本事業の目的の1つとして、進学で県外に出た生徒が戻るような施策として実施している。
- (校長) 県内事業所には、県内大学との連携によって都心部からの単身赴任ではなく、県内居住社員の確保に務めたいとの要望があり、実施が始まっている。本事業への本校のコンセプトも人材の還流である。
- (文科) コンソーシアム作成時及び運営上の苦労は(苦労している実施校もあるようなので)
- (向井) 本校のコンソーシアムは、以前実施していた理数科の事業と文科省の指定事業(実社会プログラム)の 運営指導委員を、ほぼそのまま継続してお願いしているため、設立に特に苦労はしていない。また、委員 らは学校の事情をよく分かっており応援していただける方々である。
- (文科) コンソーシアムの教育課程への効果はいかがか。
- (向井) 静岡大学での模擬講義(県内2高校のみ実施) やコンソーシアム代表者による講演等、総学等に反映されている。
- (文科) 2020年の実施に向けて、「地域創造探究」の教科科はいかがか。 本年度事業申請している学校には「教科化」を要件にしているので
- (向井) 3年間の指定期間の中で教科化できればと考えている。総合の中での成果をアップデートしていきながら整備を進めたい。
- (文科) 海外研修はどういう形で、教育課程に寄与しているか。

HAFプロジェクトの中でどう展開していくか。

12月22日の発表会内でも、海外研修を、水や貧困などをテーマに課題解決学習や探究学習に位置づけて実施している学校があり、学習と海外研修を結びつけた取組がなされている。

- (向井) 現在、海外研修への参加者が減少傾向(目標値に達しない状況)にあり、候補地等も含めた新たな展開 を模索している。
- (文科) 海外交流アドバイザー (JTB望月氏) からのアドバイスはいかがか。新たな候補地と併せて学習の機会なども調整できると思う。
- (文科) 生徒に足りない部分や力を付けたい部分はどうか。
- (下村)受け身な生徒が多く、様々な取組への意思が弱い。体験をして初めてその意義を見出す生徒も多く、参加を促していく。体験を生かした進学体制の確保にも努めていく。
- (文科) 将来的に地域に在住したいと考える生徒はどの程度か。
- (副校長) アンケートからは地域在住希望者が50%と多い印象である。しかし、気候が温暖で住みやすい等の意見も多く、地域リーダーの育成というところまでは到達していない。
- (文科) 積極性までいかなくても育てることが大切である。
- (文科)事業の取組と各教科との関りはいかがか。
- (向井) 発表の準備等で、英語や国語の教員が関り指導するなどしている。
- (下村) 探究の時間では、市民ファシリがグループ活動を展開している。教科内で討論活動を行う場合など、こうした経験が生かされ円滑に進む。
- (文科) 他校へのモデルとなるよう、探究的に地域連携を進めたい。
- (校長)総学で学んだことが教科に反映されるよう、本年度、総学の内容を大幅に改訂、様々な教員がいる中で 共通実施できるよう定着を図っている。
- (文科) 英語力を身につけるということは、他教科にも共通している。
- (校長) 教科化への困難さは、仕組み作りにより克服していく。
- (文科) 学校設定科目については、学校目標、学校として明確にしたいことを反映する。

体系的なカリキュラム、特定のテーマを掲げる中で「○○地域学」のように地元の学びに特化したい。 教育課程の特例として教科融合型の例がある。例えば社会科と総合で「○○のお茶学」などが挙げられ る。

- (松本) 県内のSSHなどでは、情報と総合の融合などがある。教育課程の特例は事業指定を受けている学校が中心となる。
- (文科) 新規の募集では、学校設定科目の設置を要件としている。学校全体で取り組むための仕掛けである。
- (文科) 成功例として、飯田OIED長姫高校等がある。

SSHやSGHは、特定教科の教員の取組に偏りがちであった。SGHはWWLに移行し学校は、学校全体での取組となっており、教職員の意識の変容に繋がっている。

事業は3ヶ年で終了するが、その間に自走できる取組をお願いしたい。

- (校長) 本事業終了後には、これに変わる事業または継続的な支援の仕組みはあるか。
- (文科)予算の件があるので、国の事業自体の状況は不明である。 海外研修への支援の仕組みとして、企業からの支援やふるさと納税の仕組みを利用したファンディング によるものなどが考えられる。
- (島田) 国立大学教育学部として、教育学部の高校との連携、教育実習、教職大学院や高大接続を進めている。 文理融合型の探究学習、STEAM教育等の展開も行っている。
- ウ質疑応答
- Q 現代社会と総学をクロスカリキュラム的に実施したと言うことだが、どの科目として実施したか。
- A 現代社会として実施した。
- Q 実社会プログラム等がベースとなっているのか。
- A 今までの取組に、地域とのつながりを加えた。
- Q 多くの生徒が県外に抜けると言うことだが、どのくらいの割合か。感覚的で良いので、最終的にどのくらい の生徒が地域に戻ってくるか。
- A 県内3割、県外7割である。
- Q 事業の目的の一つは地域に人が戻ってくること。牧之原市から地域に人を戻すことについて要請はあるか。
- A 特にない。小糸製作所は静岡大学と連携して人を定着させたいと言っていた。榛原高校の生徒は地域のリーダー格となると思っている。
- Q コンソーシアムを作る上での課題はあったか。他の高校ではコンソーシアムを構築するのに苦慮していると ころもある。
- A 従前より行われていた理数科事業や実社会プログラム等でのつながりを利用した。
- Q コンソーシアムが教育課程にどのように役立っているか。他校のモデルとなる。
- A 静岡大学では、大学訪問で授業をやってもらっている。
- Q 学校設定科目「地域創造探究」が来年度の計画に入っていないが、どのように考えているか。
- A 1~3年のカリキュラムがそろわないと教科化は難しいと判断した。 (文科コメント)試行錯誤の中での変更はあると思うが、総合的な探究の中でやるにしても、どのような型で教育がされたかを3年間でまとめる必要がある。地域創造探究でなくてもどのようにアウトプットされるか。
- Q 海外研修のHAFプロジェクトの中での位置づけは?
- A アメリカに行った 13 人は、アメリカと地域のつながりを意識したレポートを作成している。 (文科コメント) SGHでは5年間の指定事業の中で、海外研修と探究学習を上手く結びつけている。そこを 上手く関連づけると良い。
- Q 修学旅行を海外にするのは。事業の中での位置づけは。
- A 当初は、この事業がなかったので、これから検討する。

(今行っている台湾研修では、希望者が集まらないという課題がある。)

- Q 海外交流アドバイザーとの連携の中で新しい情報を得ているか。
- A いくつか得ている。研修先をベトナムやタイにしたらどうか等のアドバイスや海外渡航の安全性について。
- Q グローカル・リーダーの育成に向けて、今、不足していることは。
- A 受け身の生徒が多い。

情報としては与えているが、生徒の反応がない。

その場に連れて行くと目が開く。

地域に戻りたい生徒が20%から50%に増加した。

高校生の多忙化(部活動があって参加できない)がある。

- Q 探究学習を各教科にどのように連動させているか。
 - 英語科、英文指導
 - ・国語科、プレゼン指導
 - ・公民科、学習内容の指導

市民ファシリテーターによる研修が各授業の中でいかされている。グループワークがやりやすい。

(文科コメント) 他校のモデルとなるような仕組みを作ることを期待している。

(校長コメント)総学をモデルチェンジして2年目。校内での理解を深めることはかなり大変。

Q (向井)

学校設定教科・科目を立てることについて。総合ではなく学校設定教科として立てる必要性は

A (文科)

学校教育目標(育成したい資質・能力)に対して、テーマをもって学校全体で目指す方向性がはっきりさせ、それに特化した教科。

特例を使う (教科を融合)。総合と情報を合わせる等。

プロフェッショナル型(飯田市)では学校全体で取り組んでいる。

Q(校長)

事業指定は3年間だが、その後、特例は元に戻すのか。

A (文科)

教育課程特例校としての指定も考えられる。

Q (校長)

文理融合について

A (文科)

選択科目の横断による文理融合もあるが、地域協働においては、文系・理系教科の連携が考えられる。 STEAMのAは芸術の他にリベラルアートの意味がある。

Q (校長)

3年間の指定後の予定はどのようになっているか。

A (文科)

予算に関することなので、今の段階では分からない。いずれにしても、指定事業はいつか必ず終わる。委託 費に頼らない次の手当が必要。自走性も今回の事業のテーマとなっている。地元の市町等の自治体の協力も必 要となるが、

- ・目的を示したふるさと納税
- ・企業版ふるさと納税
- ・クラウドファンディング 等を活用することも考えられる

(1) 日時

令和元年 11 月 20 日 (水) 午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで

(2) 場所

静岡大学教育学部学部 (静岡市大谷)

(3) 訪問の目的

文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローカル型)」及び静岡大学教育学部との高大連携事業推進のため

(4) 訪問者

教諭 向井 稔

(5) 対応者

静岡大学教育学部 島田講師 (カリキュラム開発アドバイザー)

2 報告事項

(1) 文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローカル型)」について

ア 第2回運営指導委員会について

2月7日(金)午後について、別件の予定があり参加できない。前日2月6日(木)午前中に訪問するので、その際に協議を行いたい。

イ カリキュラム開発について

令和2年度入学生より入学生の定員が1クラス(40人)減となった。職員の定数も削減が見込まれるため、事業内容の見直しが必要となる。

主には、事業内容のスリム化だが、事業内容を精選する必要があり早期に着手する必要がある。人 員削減対策については、特効薬はない。

ウ 学校設定教科・科目について

必要性を今後も検討する必要がある。ただし、必要ないのなら無理に設定する必要はない。グローカル事業であるのだから、英語または総合的な探究の時間で設置するのが望ましい。

社会に開かれた教育課程を実現するうえで、地域住民が学校に直接的に関与する必要はない。運営指導委員会等を活用して、榛原高校に必要な科目を設置できるよう(または、設置しない)相談するとよい。

エ 次年度の事業計画策定にあたって

夏休みの海外研修 (アメリカ)、国内研修 (沖縄) は、原則継続でよい。

企業訪問も、過去の実績があり今後も継続するほうがよい。

修学旅行のマレーシア・シンガポールの成果をどのように出すかが大切である。

全体発表会については、学校開催で問題ないが、高大連携の観点から静大側の関与をどうするかが 課題。

(2) 静岡大学教育学部との連携について

ア 校内研修について

フィールドワーク指導を1年生全体で行う場合、講師派遣などが可能。

イ 附属中学との関係

信頼関係の構築から開始する。

公開授業への参加などで関係を深める。

- ウ 静大の文化祭(静大祭)への参加について 高校生の参加を促すのは可能か検討したい。
- エ 静大教育学部キャリサポとの連携 担当者と、高校側の代表と打ち合わせの時間をとりたい。

3 その他

- (1) 文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローカル型)」全国大会報告
- (2) 報告書の作成等について

7 研修報告

7-1 先進校視察報告(京都府立鳥羽高等学校)

1 日程

(1) 日時

令和元年 11 月 22 日 (金) 10:20~16:00

(2) 表題

令和元年度京都府立鳥羽高等学校 SGH 事業研究発表会

(3) 場所

京都府立鳥羽高等学校

(4) 目的

SGH指定校での総合および英語の授業における先進的な取り組みについて講義を受けるとともに、実際に授業を見学し、榛原高校における教育に活かす。

(5) 参加者

教諭 山田 愛理、白川 萌映香

2 報告事項

平成 27 年度から 5 年計画で実施している。カリキュラムの見直しに伴い文理選択を無くしたり、海外研修を課題研究と絡め、片岡製作所さんの協力を得て海外インターンシップ 1 単位化が実現されたりした。結果、将来国際的に働きたいという生徒や英語に意欲を持った生徒は増えたが、課題としてはまだまだ興味を持つ生徒ばかりではないということが挙げられていた。

ICT による遠隔教育を推進している。国内外の大学や高校と、課題研究に掛かるインタビューやディスカッションを行う。また、高大社連携によるフィールドワークのモデル化を推進している。

「イノベーション探究(グローバル科)」

いわゆる総合的な学習の時間にあたる。1単位では足りないので、コミュニケーション英語や英語表現、フィールドワークなどと教科横断的に行っている。各学年でのテーマは、1年 京都を知る 2年 グローバス探求 3年世界へ発信する。まちづくり、ひとづくり、ものづくり、かちづくりを切り口に社会的課題に切り込む。仮テーマ作成から始まり、夏休みにはフィールドワークを行う。研究チームを組み、研究計画書を作成。2年次にはその研究計画書を徐々にブラッシュアップしていき、順次ポスター発表。3年次にはそれを英語で発表する。課題研究を通して主体性が育まれ、推薦入試受験者が35名程度から60名程度に増加。研究課題発見、リサーチクエスチョン設定、仮説の構築に主眼。結果にこだわりすぎないことが大事だと担当教諭は述べていた。当日はグローバル科2年が発表者、1年が聞く側となってポスター発表を行っていた。ポスターはまだ完成途中で、発表で受けた質問やアドバイスを反映させながらさらに内容を膨らませていく。発表する力、質問する力、それに答える力等は育まれそうだが、1単位の科目として捉えると担当教諭の負担が大きすぎるようにも感じた。

(1) 日時

令和2年1月17日(金)13時00分から16時00分まで

(2) 場所

福井県立丸岡高等学校(福井県坂井市丸岡町23-11-1)

(3) 訪問の目的

文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローカル型)」実施状況の視察

(4) 訪問者

鈴木美徳 宮城島雅史

(5) 対応者

教頭 島田芳秀

2 内容

- (1) 校内の実施体制について
- (2) 地域での探究活動及びグローバル教育の実践について
- (3) 地域協働部の活動について
- (4) 成果・課題について
- (5) 進路指導、教育課程について
- (6) その他

3 報告

普通科4クラス、全校生徒400人弱の高校である。坂井市郊外に立地し、高校入学時の学力は当該地域において3番手校であるとのことであった。交通の便が悪く生徒数減少に悩まされているという点など、本校との共通点が多い。

グローカル事業に応募した一番の要因は前述した生徒数減少の改善である。福井県では定員が4クラスから3クラスになると合併される可能性が高くなるということで、この事業は学校存続をかけたプロジェクトに位置付けられていた。実際に、昨年度の1クラス定員が37人であったところを今年度は30人にまで減らすことが認められて何とか定員を保っている現状である。来年度の入学者数に注視したい。

事業内容は多岐に渡るが、ローカルの面で特に活躍しているのが地域協働部(顧問4人部員29人)である。地域協働部は今年度から発足した部活動で、既存の2部活動(文化部)を統廃合して作られた。ウィキペディアタウン作りや、そば打ち、百口城主などの地域活動への参加をはじめ、現在はアプリ開発に向けて奮闘していた。部員全員が名刺を持ち、地域の人々たちと名刺交換をしながら人脈を広げ、自分たちのやりたいことを深めているようであった。ただ、学校規模がそれほど大きくないことから、団体競技は野球部(現在5名)をはじめ、人材不足は否めないようである(サッカー部、剣道部、新体操部、少林寺拳法部は全国大会に出場している)。

教員数は 28 人で 20 代から 30 代前半の若手と 50 代のベテランがほぼ半分ずつの構成である。その中で探求的な 学びを指導できる教員を育成しながら、カリキュラム開発をしていた。

(1) 日時

令和2年1月16日(木)13時00分から16時00分まで

(2) 場所

兵庫県立柏原高等学校(兵庫県丹波市柏原東奥50)

(3) 訪問の目的

文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローカル型)」実施状況の視察

(4) 訪問者

鈴木美徳 宮城島雅史

(5) 対応者

教頭 丹生 憲一

2 内容

- (1) 校内の実施体制について
- (2) 地域での探究活動及びグローバル教育の実践について
- (3) 地域協働部の活動について
- (4) 成果・課題について
- (5) 進路指導、教育課程について
- (6) その他

3 報告

普通科 5 クラス、探究科 1 クラスで全校生徒 700 人弱の高校である。本校と同じ学校規模であり、丹波市郊外にあることから立地条件も近いものがある。生徒数は年々減少しており、特に私学への流出を食い止めようと苦心している。

グローカル事業内容の核は、普通科知の探究コースで行われている「探究」である。「地域課題から世界を考える」「丹波から TAMBA へ」をキャッチフレーズに、地域と連携・協働を目指した研究の実施を目指している。普通科一般コースで行われている「総合的な探究の時間」も、将来的にはこの「探究」と重なるように考えている。具体的には、研究推進部を立ち上げ、研究推進部通信「K★ing」を発行し、校内外へ生徒が行っている研究や、取り組んでいる教育内容等を紹介している。また、高校2年生が出身中学へプレゼンをしたり、オープンスクールの企画、実施をしたりしている。これらの広報戦略が功を奏してか、知の探究コースについては志望者が増加している。

英語力を鍛える取り組みとして、ALTと食堂で英会話しながらランチする「英語でしゃベランチ」を行ったり、Webex Boardという大きなテレビ会議用の機器を導入し、他校や海外の学生との交流をしたりしている。今後、アメリカのコミュニティカレッジと提携したプレゼンテーションの練習を構想しており、語学力の充実を図っている。

(1) 日時

令和2年2月25日(火)13:30~16:45

(2) 表題

令和元年度 静岡県立熱海高等学校 成果報告会 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力型)」

(3) 場所

静岡県立熱海高等学校

(4) 目的

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に採択された熱海高校での総合的な探究の授業の成果報告を受け、榛原高校における教育に活かす。

(5) 参加者

教諭 多々良 雄也、山本 優花

2 報告事項

令和元年度から実施しているこの事業では、地方自治体・高等教育機関・産業界などと協働し、地域課題の解決などの探究的な学びを推進することで、地域振興の核として高等教育の機能強化を図ることが企図されている。また、事業を通じて「探究力」「主体性」「協調性」を兼ね備えた人材を育成することを目標としている。

総合的な探究の時間を一年次では「熱高ラボ」、二年次では「熱海ラボ」と称す。この探究活動を通し、生徒は自ら課題を設定し、二年間かけて課題解決にあたる。

「熱高ラボ」

一年次の総合的な探究の時間では、地域課題の発見のため、どのように情報を収集するか、収集した情報を どのようにアウトプットするのかという基本的な能力を育成することを目的としている。教員が設定した大き な4つのテーマから生徒が関心のあるテーマを自由に選択し追求した。フィールドワークを通して必要な情報 を自分たちで収集、最終的にポスターセッションで発表を行う。

「熱海ラボ」

一年次の「熱高ラボ」での学習を踏まえ、校外の人々と関わりながら活動を行う。一年次は熱海をテーマとしたが、二年次では熱海の企業の課題をテーマとする。各企業が生徒に向けて会社の良さや魅力などのプレゼンを行い、それを受けて生徒はどの企業と連携するか自ら選ぶ。その後企業と協働しながら課題解決に向けてフィールドワーク等を行っていく。

「評価開発」

熱海高校では、先行研究を参考に、本事業の目指すべき生徒像の柱である「探究力」「主体性」「協調性」の 能力を評価するルーブリック指標を作成した。

教員、協力企業へアンケートを行った結果「主体性」を軸として作成することとなった。作成されたルーブリック指標に則って評価をしてみると、三年間を通しての生徒の変容はあまり見られなかったという。今後、本事業を踏まえて、各学年間の比較を行っていく予定である。

8 評価と課題

8-1 事業評価(校内評価)

(1) 総合的な探究の時間(地域創造探究 I / 榛高タイム)

1年生の総合的な探究の時間については、教育課程内での位置づけについて研究は進んでおり、申請時の 方向性を維持している。

次年度に向けては、海外修学旅行を中心とした2年生の総合的な探究の時間の研究開発を行う予定である。 また、学校設定教科(科目)の設定に向け、先進校視察などの取組を引き続き実施するとともに、文部科学 省の視察の際に提案いただいた、「特例を活用した情報と総合的な探究の時間の活用」について研究を行う 予定である。

【学習評価 (ルーブリック表) について】

本年度は、1年次の年間指導計画、シラバス及び学習評価について主に研究を行った。以下は、静岡大学教育学部(コンソーシアム)及びカリキュラム開発アドバイザーとの連携により作成したルーブリック表である。

なお、研究の詳細については本校のホームページ (http://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf/SearchMainView/HAFプロジェクト§文科省) に掲載する予定である。

ループリック表 榛高タイムで身に付いた力を自己評価しよう HRNO 氏名

		2 1			11110			
つけたいカ	① 情報(文章、 図、表など)収 集・分析力	② 課題設定 解決力	③ 論學過考力	④ 表現力	⑤ メタ観知力	⑥ 意思決定力	⑦ 協働力 (自己理解・他者 理解)	® 社会参画力
A 定用·広がり (Extensions) ISTUA SEME	入手 した情報 (文・数等)を始めた タ・総等)を始めた し、終情を が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	適切に課題を設 定し、課題の意 義、可能性、限界 を明確にする。 課題解決に向け た解決策を創造 する。	与えられた課題 に対し、自己と 他者の意見を分 析し、解決策を 提案する。	解釈を検討したり、 のもえた。 のもえで連べる。 できまで、 できまで、 できまで、 できまで、 できまで、 できまする。 できまする。	自分の思考選程 や活動過程を評価し、今後の活動を修正・計画 する。(何を学び、自分の考え がどのように変 わり、それを今 後にどう生かす か)	情報を活用して 競理的にの経験 し、知識と比性で で、意思決定ができる。	互いの考えを伝 え合い、合意形 成に向けて発展 的な対話をす る。	現代社会の轄制 題を自分事とし て捉え、より良 い社会の在りた を提案する。
B つながり (Connections)	複数ある情報を 取捨選択し、信 競性のある情報 を集める。	課題の意義を明 確にし、課題解 決に向けて事実 を比較したり、 分類したりす る。	自己の短線や接続を 他者の希見と比較する。	自分の経験に当 てはめたり、文 脈に関連付けた りして考えを述 べる。	自分の思考過程 や活動過程の記 録を通して適切 に自己評価す る。	収拾した情報と 自己を結び付け て比較する。	互いの考えを伝 え合い、相互に 評価する。	現代社会の結例 題と自分とのこ ながりを解彰 し、取るべき行動を考える。
C 考え・基礎図 類X I dees) (SE#5類)	文章を読んだり、記を聞いたり、記を聞いた他者の名を理解する。 情報検索する際の基本的を理解する。 では、これを理解する。 では、これを理解する。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	集めた事実についてどこに課題があるのかを理解する。	与えられた課題 について、自己 の知嫌や経験を 列挙したり思考 したりする。	適切な言葉や図 等を用いて自分 の考えを表す。	自分の思考達程 や活動選程を記 録する。	意思決定につな がる情報を適切 に取捨選択した り分類したりす る。	互いの考えを安 心して伝え合 う。	現代社会の結構 題について提覧 する。
D	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。
自己評価								

^{※ 2}年生でも探究活動は引き続き行います。今年度の活動で身についたことを確認し、来年度力を入れることをイメージしよう。

(2) 課外活動

ア 実社会プログラム

多くの生徒が意欲的に参加し、課題解決型学習としては十分な成果を上げることができた。一方で、台湾研修については30人程度を想定して募集したところ、17人(参加者16人)の応募にとどまった。このことから、海外研修の目的を再設定し、訪問先を変更する検討を行っている。

イ 部活動(グローカル部)

定時制課程の外国籍生徒との交流会や、地元企業と連携したイングリッシュ・キャンプへの参加など充実した活動を行った。次年度以降については、この活動をさらに発展させるとともに、活動内容を外部に発信する努力を行う必要がある。

ウ 地域リーダー育成プロジェクト

牧之原市が提供する地域連携事業で、従来よりも参加しやすい形態となった。次年度以降も、校内で参加者を募り積極的に参加させる方向で牧之原市と調整を行っている。

(3) 総括

生徒対象のアンケート調査より、実社会プログラム等において実施したフィールドワークについては、非常に高い評価を得ている。また、保護者アンケートでも同様の支持を得ることができた。一方で、本年度の事業終了後に実施を予定していたアンケートは、臨時休業のため、実施できていないため評価が難しい状況にある。ただし、保護者を対象に行ったアンケートで、グローカル事業を通じて「地域社会と生徒とつながり」、「世界と自分とのつながり」、「立場が異なる他者の意見を尊重するようになった」、「実社会とのつながりを感じるようになった」などの項目に対して、高い評価を得ることができた。

特に、保護者の視点から「帰国後に子どもの成長や変化を感じた」と回答している割合は、台湾研修が約75%、沖縄研修が73.4%。さらに、アメリカ研修では90%以上の保護者の方が、研修後の子どもの成長を実感しいた。

同様に、国内外研修に参加した生徒の保護者は、子どもたちが世界と地域社会、実社会とのつながりを感じられるようになったと回答しており、本事業の目的は、生徒たちにも十分に理解されており、生徒に大きな影響を与えていることが推察される。

今後は、「総合的な探究の時間」(地域創造探究 I / 榛高タイム)についても同様のアンケートを実施し、 課外活動に参加した生徒も含め、本事業推進に対する生徒の変化、影響等について分析を行い、次年度以降 の研究開発に生かしていきたい。

8-2 事業評価(カリキュラム開発アドバイザー)

カリキュラム開発アドバイザー 静岡大学教育学部講師 島田 桂吾

まず評価できる点として、第1に、これまでの事業で得られた成果を活かしながら学校全体の取組として高めようとしている点である。特に、各事業で展開された教育活動を経て生徒・保護者の多くが成長を実感していることは特筆できる点である。

第2に、コンソーシアム会議において多様なアクターが一堂に会する機会を設けた点である。大学や企業、教育委員会など多様な視点から本事業について議論をすることでアクターにとっても有益な機会になっている。

一方で、今後に向けての課題として、第1に、高校教員の意識の醸成である。本事業の趣旨等の理解は進みつ つあると思われるが、各教科の授業改善にもつなげていく余地はあると思われる。

第2に、中学校への周知及び発展性をはかる点である。特に、地域社会の学習のいくつかは中学校段階で実施可能性が高いものも見受けられる。本事業のカリキュラムが義務教育段階からの発展性がうまく整理されれば、高校「だからできる」カリキュラムに精選できるとともに、中学校側へのアピールにもつながると思われる。

今後の事業展開に期待したい。

9 参考

- 9-1 アンケート結果
- (1) グローカル事業【アメリカ研修】生徒アンケート結果
 - 1 とても当てはまる 2 当てはまる 3 どちらともいえない 4 あまり当てはまらない
 - 5 当てはまらない

回答にあたっては、事業等に参加する前の期待値を3とした。

参加者 13 人(回収率 100%)

1 事前研修 事業所訪問 杉本製茶、ふじのくに茶の都ミュージアムはどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	38. 5	38. 5
2	5	38. 5	77. 0
3	3	23. 1	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

2 事前研修 事業所訪問 JTB静岡、小糸製作所はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	30.8	30.8
2	6	46. 2	77. 0
3	3	23. 1	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

3 事前研修について 講演会静岡県立大学高畑教授はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	1	7. 7	7. 7
2	7	53. 8	61. 5
3	4	30.8	92. 3
4	1	7. 7	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

4 シアトル研修について マイクロソフトビジターセンターはどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	15. 4	15. 4
2	5	38. 5	53. 9
3	5	38. 5	92. 4
4	1	7. 7	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100. 0
計	13	100. 0	

5 シアトル研修について 杉本製茶シアトル事業所はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	30.8	30. 8
2	8	61. 5	92. 3
3	1	7. 7	100. 0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

6 シアトル研修について 日本国総領事館はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	61. 5	61. 5
2	5	38. 5	100. 0
3	0	0.0	100. 0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

7 シアトル研修について 異文化理解 (パイクプレイスマーケット見学) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	69. 2	69. 2
2	3	23. 1	92. 3
3	0	0.0	92. 3
4	1	7. 7	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100. 0	

8 シアトル研修について 異文化理解 (野球観戦) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	11	84. 6	84. 6
2	2	15. 4	100. 0
3	0	0.0	100. 0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100. 0
計	13	100. 0	

9 シアトル研修について ボーイングエバレット工場見学はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	38. 5	38. 5
2	7	53. 8	92. 3
3	1	7. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

10 シアトル研修について 小糸製作所シアトル事業所見学はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	38. 5	38. 5
2	8	61. 5	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

11 サンフランシスコ研修について 異文化理解(自由研修)はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	10	76. 9	76. 9
2	3	23. 1	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100. 0	

12 シアトルのホテルはどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	69. 2	69. 2
2	4	30.8	100.0
3	0	0.0	100. 0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

13 サンフランシスコのホテルはどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	15. 4	15. 4
2	6	46. 2	61. 6
3	3	23. 1	84. 7
4	2	15. 4	100.0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

14 利用した航空機(全日空、ユナイテッド航空)はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	11	84. 6	84. 6
2	1	7. 7	92. 3
3	1	7. 7	100. 0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

15 HAFプロジェクト アメリカ研修全体についてどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	12	92. 3	92. 3
2	1	7. 7	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	13	100.0	

(2) グローカル事業【アメリカ研修】保護者アンケート結果

- 1 とても当てはまる 2 当てはまる 3 どちらともいえない 4 あまり当てはまらない
- 5 当てはまらない

回答にあたっては、事業等に参加する前の期待値を3とした。

参加者13人 回答12人 未提出者1人(回答率92,3%)

1 事前研修(企業訪問、講演会)は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	66. 7	66. 7
2	3	25. 0	91. 7
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

2 事後報告会(資料作成等)は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	66. 7	66. 7
2	4	33. 3	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

3 研修日程(4泊6日)は、お子様にとって適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	66. 7	66. 7
2	3	25. 0	91. 7
3	0	0.0	91. 7
4	1	8.3	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

4 シアトルでの事業所訪問は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	75.0	75. 0
2	3	25. 0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

5 サンフランシスコでの、異文化体験はお子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	75. 0	75. 0
2	3	25. 0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

6 研修に参加して、お子様は地域と自分とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	1	8.3	8. 3
2	9	75.0	83. 3
3	2	16. 7	100. 0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

7 研修に参加して、お子様は、自分と世界とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	41. 7	41. 7
2	7	58. 3	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

8 研修に参加して、お子様は、立場が異なる他者の意見を尊重することができるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	16. 7	16. 7
2	8	66. 7	83. 4
3	2	16. 7	100. 0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

9 研修に参加して、お子様は、実社会とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	25. 0	25. 0
2	8	66. 7	91. 7
3	1	8.3	100. 0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

10 帰国後、様々な場面でお子様の変化や成長を感じられた。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	16. 7	16. 7
2	9	75.0	91. 7
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

11 研修費用 (現地でのバス代等は文科省事業費より支出) は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	41. 7	41. 7
2	5	41.7	83. 4
3	2	16. 7	100.0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

12 本年度の海外研修の募集人数は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	33. 3	33. 3
2	7	58. 3	91. 6
3	1	8.3	100.0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

13 実施期間 (8月末) は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	25. 0	25. 0
2	8	66. 7	91. 7
3	0	0.0	91. 7
4	1	8.3	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

14 海外研修 (アメリカ) は、榛高生にとって意義ある事業であると感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	66. 7	66. 7
2	4	33. 3	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

15 海外研修 (アメリカ) は、来年度の2年生も参加するほうが良い取組みだと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	75. 0	75. 0
2	3	25. 0	100.0
3	0	0.0	100. 0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	12	100.0	

(3) グローカル事業【沖縄研修】生徒アンケート結果

- 1 とても当てはまる 2 当てはまる 3 どちらともいえない 4 あまり当てはまらない
- 5 当てはまらない

回答にあたっては、事業等に参加する前の期待値を3とした。

回答 15 人 (回答率 100%)

1 事前研修について 講演会静岡県立大学高畑教授はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	13. 3	13.3
2	8	53. 3	66. 6
3	5	33. 3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

2 事前研修について 平和学習 (間渕先生) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	53. 3	53.3
2	6	40.0	93.3
3	0	0.0	93. 3
4	1	6. 7	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

3 沖縄科学技術大学院大学(0IST)研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	12	80.0	80.0
2	3	20.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

4 美ら海水族館研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	86. 7	86. 7
2	1	6. 7	93. 4
3	1	6. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

5 古宇利島研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	46. 7	46. 7
2	7	46. 7	93. 4
3	1	6. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

6 琉球大学研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	33. 3	33. 3
2	9	60.0	93. 3
3	1	6. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

7 沖縄宇宙通信所研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	20.0	20.0
2	2	13. 3	33. 3
3	8	53. 3	86. 6
4	2	13. 3	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

8 沖縄平和祈念資料館研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	11	73. 3	73. 3
2	4	26. 7	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

9 英語交流(首里城見学)はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	53. 3	53. 3
2	5	33. 3	86.6
3	1	6. 7	93. 3
4	1	6. 7	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

10 日程 (3泊4日) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	11	73. 3	73. 3
2	3	20.0	93. 3
3	1	6. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

11 1日目のホテル (谷茶ベイ) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	86. 7	86. 7
2	2	13. 3	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

12 2日目のホテル (マハイナウエルネスリゾート) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	86. 7	86. 7
2	1	6. 7	93. 4
3	1	6. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

13 3日目のホテル (那覇) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	60.0	60.0
2	5	33. 3	93. 3
3	1	6. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

14 静岡空港の利用についてはどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	60.0	60.0
2	5	33. 3	93. 3
3	1	6. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

15 HAFプロジェクト 沖縄研修全体についてどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	11	73. 3	73. 3
2	4	26. 7	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

(4) グローカル事業【沖縄研修】保護者アンケート結果

- 1 とても当てはまる 2 当てはまる 3 どちらともいえない 4 あまり当てはまらない
- 5 当てはまらない

回答にあたっては、事業等に参加する前の期待値を3とした。

参加者 15 人 回答 15 人 未提出者 0 人 (回答率 100%)

1 事前研修(平和・国際理解講演会)は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	33. 3	33. 3
2	9	60.0	93. 3
3	1	6. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

2 事後報告会(資料作成等)は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	33. 3	33. 3
2	8	53. 3	86. 6
3	2	13. 3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

3 研修日程(3泊4日)は、お子様にとって適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	46. 7	46. 7
2	6	40.0	86. 7
3	2	13. 3	100.0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100. 0
計	15	100.0	

4 沖縄での大学、研究所訪問は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	60.0	60. 0
2	6	40.0	100. 0
3	0	0.0	100. 0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100. 0
計	15	100.0	

5 沖縄での、外国人ガイドツアー体験や平和学習などの異文化体験はお子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	60.0	60. 0
2	6	40.0	100. 0
3	0	0.0	100. 0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100. 0
計	15	100.0	

6 研修に参加して、お子様は地域と自分とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	13. 3	13. 3
2	3	20.0	33. 3
3	10	66. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

7 研修に参加して、お子様は、世界と自分とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	20.0	20.0
2	5	33. 3	53. 3
3	7	46. 7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

8 研修に参加して、お子様は、立場が異なる他者の意見を尊重することができるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	13. 3	13. 3
2	6	40.0	53. 3
3	7	46. 7	100. 0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100. 0
計	15	100.0	

9 研修に参加して、お子様は、実社会とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	20.0	20. 0
2	7	46. 7	66. 7
3	4	26. 7	93. 4
4	1	6. 7	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

10 帰宅後、様々な場面でお子様の変化や成長を感じられた。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)	
1	4	26. 7	26. 7	
2	7	46. 7	73. 4	
3	4	26. 7	100.0	
4	0	0.0	100. 0	
5	0	0.0	100. 0	
不明	0	0.0	100.0	
計	15	100.0		

11 研修費用 (現地でのバス代等は文科省事業費より支出) は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	26. 7	26. 7
2	9	60.0	86. 7
3	2	13. 3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

12 本年度の国内研修の募集人数は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	26. 7	26. 7
2	8	53. 3	80. 0
3	2	13. 3	93. 3
4	1	6. 7	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100. 0
計	15	100.0	

13 実施期間 (8月末) は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	40.0	40. 0
2	4	26. 7	66. 7
3	5	33. 3	100. 0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100. 0
計	15	100.0	

14 国内研修(沖縄)は、榛高生にとって意義ある事業であると感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	46. 7	46. 7
2	8	53. 3	100. 0
3	0	0.0	100. 0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100. 0
計	15	100.0	

15 国内研修(沖縄)は、来年度の2年生も参加するほうが良い取組みだと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	33. 3	33. 3
2	8	53. 3	86.6
3	2	13. 3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	15	100.0	

(5) グローカル事業【台湾研修】生徒アンケート結果

- 1 とても当てはまる 2 当てはまる 3 どちらともいえない 4 あまり当てはまらない
- 5 当てはまらない

回答にあたっては、事業等に参加する前の期待値を3とした。

参加者 16 人 回答 16 人 未提出者 0 人 (回答率 100%)

1 事前研修 事業所訪問 (矢崎部品ものづくりセンター) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	1	6. 3	6. 3
2	9	56. 3	62. 6
3	6	37. 5	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

2 事前研修 台湾文化研修 (講義) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	25. 0	25. 0
2	7	43.8	68.8
3	5	31.3	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

3 事前研修 中国語研修 (講義) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	18.8	18.8
2	10	62. 5	81.3
3	2	12. 5	93.8
4	0	0.0	93.8
5	0	0.0	93.8
不明	1	6. 3	100.0
計	16	100.0	

4 事前研修 全国高校生フォーラムはどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	18.8	18.8
2	7	43.8	62. 6
3	4	25. 0	87. 6
4	1	6. 3	93. 9
5	0	0.0	93. 9
不明	1	6. 3	100. 0
計	16	100.0	

5 台湾研修について 事業所訪問 (矢崎台湾事業所) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	25. 0	25. 0
2	9	56. 3	81. 3
3	3	18.8	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

6 台湾研修について 高雄市内研修(夜市など)はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	37. 5	37. 5
2	5	31.3	68.8
3	3	18.8	87. 6
4	2	12. 5	100. 0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100. 0
計	16	100.0	

7 台湾研修について 茶文化体験(台北飲茶体験)はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	37. 5	37. 5
2	7	43.8	81.3
3	3	18.8	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

8 台湾研修について 静岡県台湾事務所訪問 (講義) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	50.0	50.0
2	6	37. 5	87. 5
3	2	12. 5	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

9 台湾研修について 九份見学はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	81. 3	81. 3
2	3	18.8	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

10 台湾研修について 異文化理解(班別自由研修)はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	10	62. 5	62. 5
2	6	37. 5	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100. 0
計	16	100.0	

11 台湾研修について 文化・歴史研修(故宮博物館など)はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	37. 5	37. 5
2	6	37. 5	75. 0
3	4	25. 0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100. 0	

12 事後報告会について 発表 (ポスターセッション) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	1	6. 3	6. 3
2	8	50. 0	56. 3
3	6	37. 5	93.8
4	1	6. 3	100. 0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100. 0
計	16	100.0	

13 台湾のホテルはどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	31. 3	31. 3
2	8	50.0	81. 3
3	3	18.8	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

14 利用した航空機 (エバー航空) はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	25. 0	25. 0
2	8	50.0	75. 0
3	2	12. 5	87. 5
4	1	6. 3	93.8
5	1	6. 3	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

15 HAFプロジェクト 台湾研修全体についてどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	31. 3	31. 3
2	10	62. 5	93.8
3	1	6. 3	100.0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100. 0
計	16	100.0	

(6) グローカル事業【台湾研修】保護者アンケート結果

- 1 とても当てはまる 2 当てはまる 3 どちらともいえない 4 あまり当てはまらない
- 5 当てはまらない

回答にあたっては、事業等に参加する前の期待値を3とした。

参加者 16 人 回答 16 人 未提出者 0 人 (回答率 100%)

1 事前研修(企業訪問、フォーラム、講演会)は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	25. 0	25. 0
2	10	62. 5	87. 5
3	2	12. 5	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

2 事後報告会(ポスターセッション)は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	37. 5	37. 5
2	9	56. 3	93.8
3	0	0.0	93.8
4	0	0.0	93.8
5	0	0.0	93.8
不明	1	6. 3	100.0
計	16	100.0	

3 研修日程(5泊6日)は、お子様にとって適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	43.8	43.8
2	7	43.8	87. 6
3	1	6. 3	93. 9
4	0	0.0	93. 9
5	0	0.0	93. 9
不明	1	6. 3	100.0
計	16	100.0	

4 台湾での事業所訪問は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	50. 0	50. 0
2	6	37. 5	87. 5
3	2	12. 5	100. 0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

5 台北での、異文化体験はお子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	81. 3	81. 3
2	3	18.8	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

6 研修に参加して、お子様は地域と自分とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	37. 5	37. 5
2	9	56. 3	93. 8
3	1	6. 3	100.0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100. 0	

7 研修に参加して、お子様は、自分と世界とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	43. 8	43.8
2	7	43. 8	87. 6
3	1	6. 3	93. 9
4	1	6. 3	100. 0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100. 0	

8 研修に参加して、お子様は、立場が異なる他者の意見を尊重することができるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	12. 5	12. 5
2	9	56. 3	68.8
3	4	25. 0	93.8
4	1	6. 3	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

9 研修に参加して、お子様は、実社会とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	18.8	18.8
2	9	56. 3	75. 1
3	4	25. 0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

10 帰国後、様々な場面でお子様の変化や成長を感じられた。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	25. 0	25. 0
2	8	50. 0	75. 0
3	3	18.8	93. 8
4	0	0.0	93. 8
5	1	6. 3	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

11 研修費用 (現地でのバス代等は文科省事業費より支出) は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	12. 5	12. 5
2	8	50. 0	62. 5
3	4	25. 0	87. 5
4	2	12. 5	100. 0
5	0	0.0	100. 0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

12 本年度の海外研修の募集人数は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	3	18.8	18.8
2	6	37. 5	56. 3
3	6	37. 5	93.8
4	0	0.0	93.8
5	0	0.0	93.8
不明	1	6. 3	100.0
計	16	100.0	

13 実施期間 (12月末) は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	25. 0	25. 0
2	6	37. 5	62. 5
3	6	37. 5	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

14 海外研修(台湾)は、榛高生にとって意義ある事業であると感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	12	75. 0	75. 0
2	4	25. 0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100.0	

15 海外研修(台湾)は、来年度の生徒も参加するほうが良い取組みだと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	10	62. 5	62. 5
2	5	31. 3	93. 8
3	1	6. 3	100. 0
4	0	0.0	100. 0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	16	100. 0	

- 9-2 榛原高校の取組を紹介する新聞記事等
- (1) 「榛原高校の総合的な探究の時間が紹介されました」日本経済新聞静岡版(2019年8月14日朝刊)



(2) 「文科省のグローカル事業の紹介記事にて紹介されました」読売新聞全国版(2020年2月21日朝刊)



(3) 「静岡大学教育学部と連携協定を締結」静岡新聞(2019年7月17日朝刊)



(4) 「ESD(ESLプログラム) イングリッシュ・キャンプが紹介されました」 静岡新聞 (2019 年 8 月 14 日)



(5) 「牧之原市長出前授業が紹介されました」静岡新聞(2019年7月10日)



令和2年3月1日

静岡県立榛原高等学校 HAFプロジェクト (HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT) 静岡県立榛原高等学校HAF委員会/研修課

> 〒421-0422 静岡県牧之原市静波 850 電話 0548(22)0380 FAX 0548(22)6557

https://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf/